

配 布 資 料 No. 2

【協議（１）教育委員会関係課・関係施設】

【協議（２）、協議（３）】

協議にかかる資料

- (1) 平成 30 年度主要施策の実施状況報告及び平成 31 年度事業計画について

(説明)

- ② 学校調整課・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 2 P 83～）
- ③ 学校教育課・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 3 P 85～）
- ④ 保健体育課・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 4 P 87～）
- ⑤ 県立生涯学習推進センター・・・・・・・・（資料 5 P 89～）
- ⑥ 県立図書館・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 6 P 91～）
- ⑦ 県立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 7 P 93～）
- ⑧ 県立美術館・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 8 P 95～）
- ⑨ 県立青少年の家・・・・・・・・・・・・・・（資料 9 P 97～）

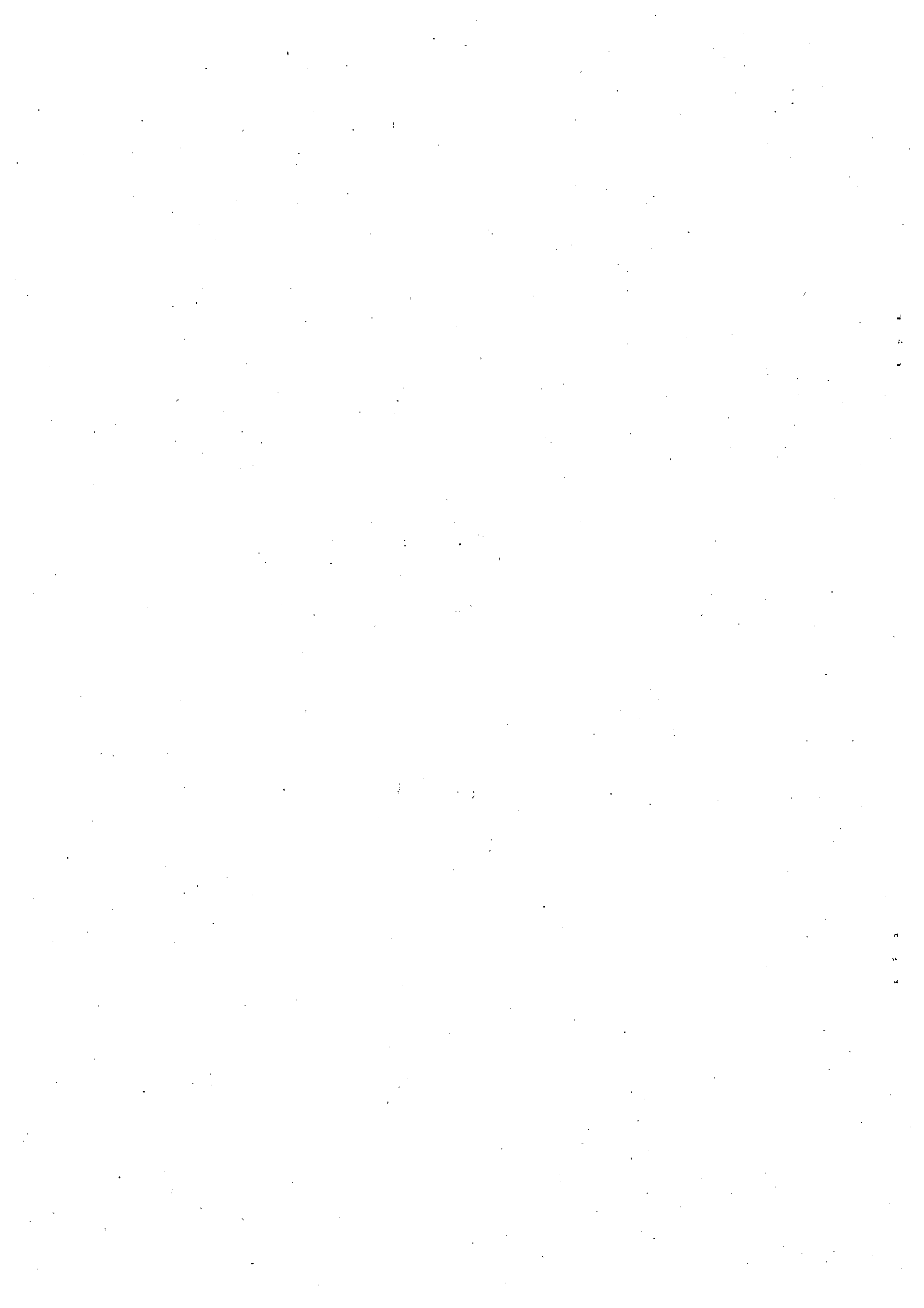
- (2) 今後求められる施策の方向性について・・・（資料 10 P 103～）

「次代の岩手を創造する人づくり・地域づくりの推進

～社会の変動に対応し、岩手らしさを生かした生涯学習・社会教育施策
の方向性について～」

- (3) 平成 31 年度社会教育関係団体活動費補助金の交付について

（資料 11 P 119～）



(様式 2-1)

平成 30 年度主要施策の実施状況 (概要)

公所名 学校調整課

説明者 職名 首席指導主事兼総括課長 氏名 佐藤 有

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
いわての復興教育の推進	「いわての復興教育」プログラムに基づき、学校の実情に応じた取組を支援することができた。また、「地域連携」の取組は、西和賀町において異校種や地域との連携の充実・強化を図った。また、「いわての復興教育」プログラムの改訂を進めた。 今後は、震災津波を知らない児童への対応、教訓を語り継ぐ取組や実践的な防災教育を進めながら、岩手の復興・発展を支える人材育成をさらに推進していきたい。
幼児児童生徒の心のサポートの充実	東日本大震災津波による被害が大きかった地域へのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の派遣や専門家で構成する県内大学チームによる支援、「心とからだの健康観察」の実施・活用等を実施した。「心とからだの健康観察」結果において、サポートを要する児童生徒の割合は、全県でH23 14.6%、H24 12.6%、H25 12.0%、H26 11.9%、H27 11.5%、H28 11.5%、H29 11.3%となっている。今後とも継続した支援が必要である。
いじめ問題対策	自殺予防の取組、いじめ問題への対応についての教員研修の充実を図った。今後も、各学校が学校いじめ防止基本方針等に基づいた対応を図ることができるよう、いじめ問題への適切な対応に係る研修の充実や各学校への支援を実施していく。

2 重点事業の状況 (2~3)

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
いわての復興教育推進事業	①いわての復興教育スクール〈沿岸〉	①H31.2.28まで	①小10、中6、義務1、県立7	①②③カリキュラム・マネジメントの視点や各学校の実情に応じた「いわての復興教育」を推進することができた。 ④「学校版タイムライン」の普及啓発に資することができた。 ※「いわての復興教育」プログラム【改訂版】 3月完成
	②いわての復興教育スクール〈内陸〉	②H31.2月まで	②小4、中4、県立8	
	③復興教育研修会の実施	③H30.7~12月の間	③6教育事務所 計438名	
	④岩手県防災教育研修会	④H30.6.12	④188名	
	⑤児童生徒実践発表会(新規)	⑤H31.1.30	⑤発表校8校(小2、中2、義務1、県立3)	
	⑥「震災の教訓を未来に語り継ぐ期間」	⑥H31.2月~3月の間	⑥各学校の計画による	
スクール等配置事業	①実態やニーズに対応した研修会実施 ②沿岸部への人的支援の充実 ③「心とからだの健康観察」の実施	平成23年度からの継続的な取組	県内公立幼稚園等、小中学校、義務教育学校、高等学校、幼児児童生徒	震災からの時間の経過を踏まえ、ニーズに対応した「研修」「人的配置」と「心とからだの健康観察」を併せて事業を進めることができた。

平成 31 年度 (学校調整課) 事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
「いわての復興教育」・防災教育の推進	いわての復興教育推進事業	①いわての復興教育スクール〈沿岸〉 ・いわての復興教育スクール ・交流学习スクール ・震災学習列車活用スクール	①②③2019年度	①小・中・義務教育学校・県立学校 ②小・中・義務教育学校・特別支援学校小・中学部 ③④⑤全公立学校
		②復興教育副読本の効果的な活用の推進		
		③学校防災アドバイザー派遣の実施		
		④児童生徒実践発表会	④2020.1月	
		⑤「震災の教訓を未来に語り継ぐ期間」	⑤2020.2月～3月	
	学校安全総合支援事業	①いわての復興教育スクール〈内陸〉 ②学校防災アドバイザー派遣の実施 ③県防災教育研修会の実施	①②2019年度 ③2019.6月	①②小・中・県立学校 ③全公立学校、市町村教委、市町村防災担当者
教育相談体制の充実	スクールカウンセラー等配置事業	スクールカウンセラーの重層的な配置を行い教育相談体制の一層の充実を図る。	2019.4月～2020.3月	幼小中高の幼児児童生徒
	スクールソーシャルワーカー配置事業	各教育事務所にスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒が置かれている環境の改善に関する支援を強化する。	2019.4月～2020.3月	小・中・義務教育学校の児童生徒
	スクールソーシャルワーカーの派遣	県立学校へスクールソーシャルワーカーを派遣し、児童生徒の環境の改善に関する支援を行う。	2019.4月～2020.3月	県立学校の児童生徒
	心とからだの健康観察	児童生徒一人ひとりの経年変化がわかる資料を提供する。	2019.8月～9月	県内全公立学校の児童生徒
いじめ問題対策	教職員研修	全校種の教員研修を実施する。 総合教育センターにおいて、いじめ防止等に関する全校悉皆の2つの講座を実施する。	2019.4月～2020.3月	県内全公立学校の教員
	「いじめ問題解決支援チーム」の派遣	各学校等の解決困難ないじめ事案に、専門的な知見からの助言等を行い、重大事態に至ることを防ぐとともに、いじめ問題への組織的対応力の向上を支援する。	2019.4月～2020.3月	県内全公立学校・市町村教育委員会

(様式2-1)

平成30年度主要施策の実施状況(概要)

公所名 学校教育課

説明者 職名 総括課長 氏名 小久保 智史

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
学力向上	6地区で「地域とともにある学校づくり推進フォーラム・教育振興運動推進研修会」を通じ、学校と地域・家庭の連携や家庭学習の意義などについて啓発を図った。 県学習定着度状況調査(児童生徒質問紙)から、中学校で「自分で計画を立てて取り組む」生徒が増えており、より効果的な家庭学習の取組が進められていることが分かる。 児童生徒の学校における学びの確実な定着のために、家庭学習の充実が不可欠であり、今後も、家庭・地域の連携を強化し取組を推進する。
グローバル人材の育成	政策地域部国際室との連携事業として、「いわての地域国際化人材育成事業」(新規事業)を実施した。 小学5年生から高校3年生を対象としたイーハトーブ・キャンプ(イングリッシュ・キャンプ)や高校生を対象としたオーストラリア・台湾への海外派遣研修により、英語コミュニケーション能力の向上や国際理解を深め国際感覚を育成することができた。
新たないわて特別支援教育推進プランの策定	策定検討委員会等における議論を経て、「就学から卒業までの一貫した支援の充実」、「各校種における指導・支援の充実」、「教育環境の充実・県民理解の促進」の3つの柱に基づいて構成されるプラン(案)を作成した。(年度内に公表予定)

2 重点事業の状況(2~3)

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
進教育振興運動推進会	学校と地域・家庭との連携による家庭での学習習慣の確立や、学力向上に関する共通理解を図る。	H30.6~7月の間	県内6地区の保護者・教育関係者等 965名	中学校において家庭学習に「自分で計画を立てて取り組む」生徒が増えた。 家庭学習時間の増加につながるよう、継続して啓発を図る必要がある。
人材育成事業 いわての地域国際化	(1) イーハトーブ・キャンプ ①HOPコース ②SKIPコース ③JUMPコース	①日帰り H30.6~11月 ②1泊2日 H30.9月と12月 ③2泊3日 H30.8月と11月	①43名 ②85名 ③65名	(1)英語を通じて積極的に他者と関わろうとする意欲や態度を育成することができた。
	(2) 高校生の海外派遣研修 (国際室との連携)	H30.10月20日 ~11月1日	10名	(2)国際理解や国際感覚を直接体験し、将来の進路が具体的に変わった生徒もいた。
策定 (「2019~2023」の 育推進推進プラン の 「いわて特別支援教	策定検討委員会等の実施	7月、11月 (12月12日~1月11日までパブリックコメントを実施)		策定検討委員会等における議論を経て新しい「いわて特別支援教育推進プラン」(案)を作成した。 パブリックコメント等の意見を踏まえ、3月の公表に向け調整を進めていく。

平成 31 年度 (学校教育課) 事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
学力向上	地域とともにある学校づくり推進フォーラム・教育振興運動推進研修会における情報提供	児童生徒に確かな学力を保障するため、①「わかる授業」の推進(授業改善)、②諸調査結果を活用した学校の組織的対応の強化、③家庭学習の充実等に引き続き取り組む。さらに、「地域とともにある学校づくり推進フォーラム・教育振興運動推進研修会」の機会を通じて、学校と地域・家庭の連携や家庭学習の意義等について啓発を図る。	6月～7月	県内6地区の保護者・教育関係者
岩手と世界をつなぐ人材の育成	いわての地域国際化人材育成事業	(1) イーハートープ・キャンプ ① HOP コース (小5～中1対象) 3会場 ② SKIP コース (中1～高3対象) 教育センター会場 ③ JUMP コース (中1～高3対象) 2会場	① 2019 年 6・7・10 月 ② 2019 年 6・11月 ③ 2019 年 8・9月	① 小5～中1 各回30名程度 ② 中1～高3 各回40名程度 ③ 中1～高3 各回30名程度
		(2) 高校生の海外派遣研修 (米国予定)	(2) 2019 年 10～11月の 約2週間	(2) 県内高2～ 3年生12名 (沿岸被災生徒含む)

(様式2-1)

平成30年度主要施策の実施状況(概要)

公所名 保健体育課

説明者 総括課長 荒木田 光孝

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
健やかな体を育む 教育の推進	【成果】○ 小中学校における「希望郷いわて 元気・体力アップ 60 運動」取組の 充実と幼稚園等への理解の広がり ⇒下記① ○ 部活動における効果的計画的な指導の推進 【課題】○ 望ましい食習慣及び基本的な生活習慣の確立 ⇒下記② ○ 肥満予防・対策の継続した取組 ⇒下記②
豊かなスポーツラ イフの振興	【成果】○ オリンピック・パラリンピック教育の普及拡大 ⇒下記③ 【課題】○ 中長期的視野に立った選手育成・競技力向上の継続的な取組
安全管理の徹底と 安全指導の充実	【成果】○ 事故等の未然防止策等の徹底に向けた教職員への研修による資質向上 【課題】○ 学校・家庭・地域・関係機関の連携による学校安全環境の確保

2 重点事業の状況(2~3)

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
①子供の運動 習慣アップ 支援事業	・「幼児の 60 運動遊び プロジェクト」によ る幼児の運動遊びの 習慣形成と保護者へ の啓発	7~2月	公立幼稚園： (実践園)1園	【成果】幼児期における運動 遊びの重要性についての啓発 【課題】幼稚園等における家 庭・地域との連携及び保護者 への一層の啓発
②学校保健総 合支援事業	・肥満指導指針の検 討、保護者用指導資 料の作成・周知によ る肥満予防・対策の 推進	6~2月	委員	【成果】各種研修会の開催、 指導資料の作成による肥満予 防・対策に係る指導の充実 【課題】学校・家庭・地域の 連携による取組の普及
③オリンピッ ク・パラリ ンピック・ ムーブメン ト全国展開 事業	・運動・スポーツとの 多様な関わり方を学 ぶことができるよう にするためのオリン ピック・パラリンピ ック教育の推進	通年	小学校 4校 中学校 3校 高等学校 3校 特別支援学校 1校	【成果】スポーツへの興味・ 関心の高まりと教育的価値に 対する理解 【課題】オリンピック・パラ リンピアンへの派遣に頼らない オリパラ教育の推進

平成31年度保健体育課事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実	子供の運動習慣アップ支援事業	・幼児期の運動遊びの在り方について実践研究を行い、効果的な取組について明らかにしながら幼稚園・認定こども園等を支援する。	通年	公立幼稚園等
	オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業	・推進校にオリンピック・パラリンピアンを派遣し授業を実施する。 ・スポーツの価値への理解、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等、多面的な教育的価値について学ぶ機会とする。	通年	小・中・高・特支
適切な部活動体制の推進	中学校部活動連絡会等支援事業(指導主事派遣)	・教職員、保護者、外部指導者との情報交流の場等に指導主事を派遣し、適切な部活動の在り方等について講義及び助言を行う。 ・市町村教委・学校が実施する部活動指導員や外部指導者を対象とする研修会に講師として指導主事を派遣する。	通年	中学校
健康教育の充実	学校保健総合支援事業及びがんの教育総合支援事業	・肥満予防・対策を推進するため、関係者による協議会の開催、高校生の肥満指導資料の作成を行う。 ・がん教育の在り方の検討を行う。	6月～2月	
	食育推進研修会	・学校全体で取り組む食に関する指導に係る計画の在り方について理解を深めるために、講義及び実践発表等を実施する。	7月下旬	小・中・高
安心して学べる環境の整備	学校安全指導者講習会	・文部科学省「学校安全教室事業」の一環として実施する。 ・学校安全に取り組む組織体制が構築できるよう、講義及び協議等を実施する。	6月第1週	小・中・高

平成30年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立生涯学習推進センター
 説明者 所長 藤原 安生

1 総括的な成果と課題

項 目	成 果 と 課 題
領域(1) 学習情報提供・学習相談	○HP「まなびネットいわて」のコンテンツの充実と最新情報の提供に努めた。特に、国や県、他部局の情報をトップページに「新着情報」として掲載するとともに、社会教育・生涯学習に関する情報も随時更新することで、幅広い方々に興味・関心を持っていただける機会となった。 ※トップページアクセス数【12月末現在】(H29:19,199⇒H30:29,258 +10,059) ▽今後も様々な分野の情報提供と社会教育・生涯学習に関する情報・学習相談に努めるとともにHPの定期的な更新にも努める。
領域(2) 調査・研究の推進	○学校と地域の連携・協働の実態把握（コーディネーター）及び市町村の家庭教育支援に係る実態把握（市町村担当職員等）を明らかにし、望ましい「学校と地域の連携・協働のあり方」と「市町村における家庭教育支援のあり方」の提案を行うこととしている。 ▽提案内容の理解と継続的な取組、新たな事業展開への一助となるよう、引き続き周知・啓発に努める。
領域(3) 指導者の養成・研修の充実	○県の施策及び受講者のニーズを踏まえた研修講座を実施するとともに、出前研修（講師派遣）により、満足度の高い評価を得るなど研修内容の充実を図ることができた。 ▽他部局と連携した事業の展開を視野に入れながら、人づくり・地域づくりの観点をより一層重視しながら各種事業を組み立てていく必要がある。

2 重点事業の状況（2～3）

事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	参 加 状 況	成 果 ・ 課 題
領域(2) ○調査研修事業	・「学校と地域の連携・協働に関する研究」(2/2年次) ・「市町村における家庭教育支援のあり方に関する実践的研究」(1/2年次)	発表会 H31.1/31-2/1	---	○学校と地域の連携・協働のあり方、市町村における家庭教育支援のあり方を提案する。 ▽市町村及び学校等への普及と啓発、支援が必要である。
領域(3) ○センター公民館職員等研修講座	・社会教育の推進及び地域づくりに携わる地区センター・公民館職員の資質向上を図る研修会の実施	県南 8/24 中部 10/26 盛岡 11/29	県南 18名 中部 24名 盛岡 17名 合計 59名	○各地区の実態に即したテーマを設定し、職員のスキルアップを図ることができた。 ▽実践的な内容を盛り込みながら、参加者増に努めていく必要がある。
領域(3) ○子育て・親育ちサポートサロン	・子育て中の保護者の方々等に対して、家庭教育・子育てに関する学習の提供をするとともに、地域の子育て支援関係者とのつながりをつくる研修の実施	盛岡 6/22 中部 5/23 県南 5/30 沿岸南部 6/29 宮古 7/6 県北 7/31	盛岡 20名 中部 18名 県南 14名 沿岸南部 20名 宮古 14名 県北 15名 合計 101名	○保護者が日常の子育てについて振り返る機会になるとともに、子育て支援関係者とのつながりの場となり、今後の子育てに見通しを持つことができた。 ▽市町村が地域の子育てサポーターとつながりがつくれるよう更に支援する必要がある。

平成31年度 生涯学習推進センター研修講座等計画 (指導者の養成・研修) (案)

平成31年度新規事業

区分	研修・講座名	内 容	期日等	対象の詳細	定員
主に市町村・施設・関係職員を対象	新任生涯学習関係職員研修講座	生涯学習・社会教育の推進に関する基本的事項及び職務に関する研修	5/16 (木) ~17 (金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係新任職員	100
	家庭教育・子育て支援担当者研修会	家庭教育支援・子育て支援にあたる地域人材の活用や連携の充実等を図る市町村担当者ための研修	5/23 (木)	市町村家庭教育・子育て支援担当職員	30
	社会教育指導員・地域づくり関係職員等研修講座	社会教育指導員・地域づくり関係職員等としての必要な専門的事項に関する研修	5/28 (火)	社会教育指導員、センター職員、地域づくり関係者	60
	事業担当者ための評価研修会	社会教育における事業評価の考え方と実践的な活用方法に関する研修	6/14 (金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員	40
	広報スキルアップ研修講座	魅力的かつ効果的な周知・広報活動に関する研修	7/12 (金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員	40
	家庭教育・子育て支援実践セミナー (仮称)	市町村の実態やニーズに応じ、家庭教育支援に関する実践的な事業を協働で企画・運営するもの(当センターの研究に関連)	① 7/30 (火) ② 9/26 (木) ③ 10/21 (月)	希望する市町村生涯学習・社会教育関係職員・関係団体等	
	コミュニケーションスキルアップ研修講座	生涯学習関係職員等に不可欠な実践的対人スキルの向上を図る研修	8/2 (金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員、学校関係者	70
	学校と地域の連携・協働研修会	学校・地域関係者を対象に、学校支援地域本部事業の事業理解を促し、学校と地域の連携の充実を図る研修	8/9 (金)	県・市町村生涯学習・社会教育担当課職員、学校関係者、学校支援支援地域本部関係者	50
	事業プログラム企画運営研修講座	事業プログラム企画運営に関する研修	8/30 (金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員	40
	人づくり・地域づくり関係職員等研修講座 (仮称)	地域づくりを担う地区センター・公民館職員等のスキルアップを図る研修	盛岡会場 11/26 (火) 中部会場 7/5 (金) 東部会場 10/4 (金)	センター職員、公民館職員、市町村担当職員、他部局職員等	各30
センター長・公民館長・主幹課長等セミナー	生涯学習・社会教育及び地域づくりを担う施設長・担当部長における施策推進に関する研修	9/10 (火)	センター長、公民館長、市町村生涯学習担当課主幹課長	50	
子育て・家庭教育相談担当者研修会	子育て支援・家庭教育支援にあたる電話相談等職員及び保護者支援にあたる子育て支援人材のスキルアップを図る研修	① 10/7 (月) ② 2/19 (水)	県・市町村電話相談担当者、子育て支援関係者、岩手県子育てサポーター	各30	
岩手県地域視聴覚教育協議会専任職員等研修会 (共催)	AVL運営上必要なメディアに関する専門的知識・技術に関する研修	6/20 (木) ~21 (金)	地域AVL専任職員等	—	
ボランティア活動者・有志指導者を対象	学校支援地域コーディネーター・地域学校協働活動推進委員等研修会	学校の地域連携の推進と学校支援地域本部事業を推進するコーディネーター等の資質向上に関する研修	① 6/7 (金) ② 11/15 (金)	地域コーディネーター、市町村事業担当職員、学校関係者	各50
	読書ボランティア研修会	読書ボランティアの資質向上と読書活動の推進を図るネットワークの形成に関する研修	6/18 (火)	読書ボランティア、読書推進関係者、市町村読書推進担当職員	200
	放課後子どもプラン指導者合同研修会	「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の指導者等の情報共有や連携の促進、資質の向上に関する研修	① 7/2 (火) ② 10/1 (火)	市町村事業担当者、放課後子ども教室指導員、放課後児童支援員	各100
	子育て支援活動交流研修会	家庭教育・子育て支援関係者の資質向上とネットワーク形成に関する研修	9/5 (木)	岩手県子育てサポーター、子育て支援関係者、市町村家庭教育・子育て支援担当職員	60
	子どものまなびを支えるセミナー	青少年教育担当者の資質向上とネットワーク形成に関する研修	センター会場 9/19 (木) 沿岸南部会場 6/28 (金) 宮古会場 11/21 (木) 県北会場 10/24 (木)	県・市町村青少年教育関係職員、青少年教育施設職員、NP O・地域づくり関係者、社会教育関係団体(青少年関係)職員	各30
	復興支援セミナー	沿岸被災地において、学校と地域の連携を図る事業(放課後子ども教室・学校支援地域本部事業・公民館事業)の推進を支援する研修	沿岸南部会場 7/17 (水) 宮古会場 6/12 (水) 県北会場 11/6 (水)	子どもの学びを核とした事業の関係者、市町村生涯学習・社会教育関係職員等	各30
	子育て・親育ちサポートサロン	子育て中の保護者等に対して、家庭教育・子育てに係る学習機会を提供するとともに、地域の子育て支援関係者とのつながりをつくる研修	沿岸南部会場 9/12 (木) 宮古会場 5/30 (木) 県北会場 8/27 (火)	子育て中の保護者、岩手県子育てサポーター、子育て支援関係者、市町村家庭教育・子育て支援担当職員	各20
	要請研修	随時研修	生涯学習・社会教育に関する団体が、当センターの職員、施設・設備を活用して随時実施する研修	通年	
出前研修 (講師派遣)		生涯学習・社会教育に関する事項及び教育振興運動の推進に関する事項等について、市町村や関係機関等の要請により職員を派遣して実施する研修	通年	対象を特定せず、市町村等の要請に応じて行う	
その他	放課後児童支援員認定資格研修	放課後児童支援員として必要な基本的生活習慣の習得の支援、自立に向けた支援、家庭と連携した生活支援等に必要知識・技能を習得するための研修	盛岡会場・県北会場・県南会場・沿岸会場 (各会場: 2日×2回)	放課後児童支援員	各100
	キャリア教育支援事業 高等学校卒業程度認定試験	文部科学省の依頼を受け、様々な理由で高等学校を卒業できなかった者等の学習成果を適切に評価し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるかどうかを認定するための試験	11/9 (土) ~10 (日)	県民	—
	北海道・東北4県生涯学習センター職員交流研修会	北海道・東北4県の生涯学習センター職員が各県の生涯学習関係事業に関する情報を交流し、各県の事業の充実を目指す研修	7/25 (木) ~26 (金)	北海道、岩手県、青森県、秋田県、山形県の県立生涯学習センター職員	25
	岩手県生涯学習推進研究発表会 ~地域づくり・人づくりフォーラム 2019~	本県生涯学習・社会教育の推進に係る提案として、調査研究事業の成果等を発表	2/6 (木) ~2/7 (金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員、県民	150

平成 30 年度主要施策の実施状況 (概要)

公所名 岩手県立図書館
説明者 館長 朴澤ゆかり

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
(1)図書館資料の 収集・整理・保 存・活用 (2)図書館サービス の充実 (3)市町村立図書館 等への支援と連 携の推進	<p>[成果]</p> (1) 図書館資料収集方針・選定基準を基に効率的収集に努めるとともに、各種事業や図書館PR等を通じて利用増進に努めた。 (H29 来館者数 404,870 人(全都道府県立 19 番目、東北 2 番目)) (2) 利用者の様々な調べもの(レファレンス)支援や企画展、映画会、読み聞かせなどを開催した。 (H29 レファレンス件数 22,121 件(全都道府県立 16 番目)) (3) 市町村立図書館等職員を対象に研修(5 研修 7 回)を実施し、職員の知識・技能の向上を支援した。 被災図書館等の課題や再建計画などを把握し、助言等を行った。 (6 月 大槌町立図書館開館) <p>[課題]</p> ① 来館者数は高い水準にあるものの逡減しているため、一層の図書館資料の充実と特色のあるサービスの提供に努める必要がある。 ② 市町村立図書館等の運営を助言・支援できる人材を育成し、指定管理者の協力を得ながら支援体制の充実を図る必要がある。

2 重点事業の状況(2~3)

事業名	趣旨	内容・期日	参加状況	成果・課題
県民の読書活動促進事業	・読書週間を重点に読書推進活動を展開	① こどもの読書週間 4/23~5/12 ② (全国)読書週間 10/27~11/9 ③ 岩手の読書週間 2/1~2/14 ④ 郷土資料講座 12/16 紫波町 「紫波にきた近江商人」	[週間中の県内行事数] ① 144 行事 ② 158 行事 ③ 161 行事 ④ 130 名	平成 29 年度より、読書推進標語の応募校を対象に取組人数を調査。 ・児童生徒応募数 999 点 ・取組校数 35 校 ・取組人数 6,791 人
市町村立図書館等運営支援事業	・職員 の知識技能の向上 ・運営状況や課題等の把握・支援	① 新任館長等研修 4/26 ② 初任職員研修 5/24~25 ③ 中堅職員研修 7/19~20 ④ 図書館職員・図書館協議会委員合同研修会 10/26 ⑤ 専門職員研修 9/7、11/7、11/21 ⑥ 市町村(図書館)訪問	① 17 人 ② 40 人 ③ 50 人 ④ 55 人 ⑤ 27 人、13 人、16 人	①②③④⑤ 5つの研修(計7回)の満足度は平均 87.6% ⑥ 20 市町村(のべ 20 館)を訪問

平成 31 年度岩手県立図書館事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
図書館資料の収集、整理、保存及び活用	図書館資料の収集・活用	望ましい蔵書構成に沿って作成された収集方針に基づく図書館資料の収集および活用	H28 所蔵調査 H29～「望ましい蔵書構成」に沿った収集方針に基づく資料収集	
	郷土・震災資料の網羅的収集・活用	① 古文書等の解説、デジタルアーカイブ化の推進 ② 震災資料の収集、活用（企画展）。復興局の「岩手県震災アーカイブ事業」への協力 ③ 郷土資料講座の開催	① 通年 ② 通年 （2月～3月に企画展） ③ 年1回	
学習機会の提供と読書活動の奨励	図書館資料を活用した企画展示	所蔵資料を紹介する企画展や博物館、美術館等との連携事業、講座等の開催	通年	
	読書週間関連事業の実施	① 県内図書館等において読書推進関連イベントの開催 ② 読書推進標語・手づくり絵本の募集・表彰 ③ 「読書をすすめるつどい」（表彰・講演等）の開催県内	読書週間中 6月～2月 2月	① 県内図書館等 ② 小中高校生、一般、親子 ③ 一般、図書館関係者
	読書活動、調べ学習、就労体験実習等学校教育支援	見学、体験学習、インターンシップ受け入れ対応 出前講座	通年	
市町村支援及び連携	市町村立図書館等訪問による支援等	① 県内図書館等訪問による運営状況の把握・助言・支援 ② 相互貸借・団体貸出等支援	4月～11月 通年	
	市町村立図書館等職員の育成	① 各種研修の実施 ② 県内図書館等職員の参加による調査研究を実施	4月～11月 9月～3月	県内図書館等職員
県立図書館の円滑な運営	県職員の育成	① 新任職員等対象の館内、館外研修 ② 司書（または司書補）講習に派遣し、専門性向上	① 策定 4月 研修 通年 ② 講習 7月～9月	
	指定管理業務の確認・支援	① 指定管理モニタリング ② 運営課題等定期打合せ	月1回 月1～2回	

(様式 2-1)

平成 30 年度主要施策の実施状況 (要旨)

公所名 岩手県立博物館

説明者 職名 副館長 氏名 千葉 徳郎

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
(1) 調査研究活動の推進と効果的な資料収集活動	<p>【成果】関係機関と連携し、積極的に調査・研究活動や資料収集を行ったほか、新たな整理計画等をまとめた。また、被災文化財の修復及び確立した技術等のこれまでの成果をテーマ展として当館で展示発表した。</p> <p>【課題】資料の寄贈希望が増加しているが、収蔵スペースの不足や施設の老朽化による保管管理の難しさ等検討すべき課題がある。また、被災資料の安定化処理後の経過観察を実施し、必要に応じ新たな措置方法を構築し、対処していく必要がある。</p>
(2) 県民ニーズを踏まえた常設展示や魅力ある展覧会の開催	<p>【成果】子ども受けや大人が懐かしむような展覧会により、12月末まで実施した展覧会全てで観覧者が1万人を超えた。また、各部門が定期的に展示替えを行ったほか、収蔵資料を活用したトピック展も好評を博した。</p> <p>【課題】予算が縮減する中で、多種多様な県民のニーズに対し、各部門の研究成果をうまくマッチングさせて展示活動に反映させられるかが課題。</p>
(3) 学校教育と博物館との連携強化など教育普及活動の充実	<p>【成果】12月末現在、「県博出前講座」は、15回実施しており、「学校学習利用」は、74件、3,088名であった。また、ホームページやSNSを活用して学校との連携情報を発信し、当館利用を促した。</p> <p>【課題】各学校等への学習支援の方法や博学連携の実態について、現状を分析しその方法や在り方について踏み込んだ取り組みを行う。また、常に新鮮かつ魅力ある情報を作り出し、インターネット等を活用し供給し続けること。</p>

2 重点事業の状況 (2~3)

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
企画展及びテーマ展等の開催	①地域展「明日につなぐ気仙のたがらもの」 ②企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」 ③テーマ展「祈りにみる動物たち」 ④テーマ展「新・収蔵資料展」	3/3~5/6 (54日間) 6/2~8/19 (71日間) 9/22~11/25 (66日間) 12/15~2/24 (57日間)	10,550人 13,509人 10,249人 1,604人 (12/28現在)	多くの県民等に観覧していただき、その評価も高く充実した内容の展覧会が開催できた。今後も県民ニーズを踏まえた創意工夫された魅力ある展覧会の開催を目指したい。
第10回博物館まつり	①博物館をより身近に感じてもらい、様々な体験を通して、岩手の地勢や自然の豊かさ、先人の生活の知恵を体感してもらう ②9の体験コーナーや郷土芸能の公演、民謡公演	10/7	2,079人	当館の代表的なイベントとして定着しており、「身近な博物館」と感じてもらえる絶好の機会となっている。内容のさらなる充実を図り来場者の満足度を高めたい。
被災文化財の再生作業	陸前高田市博物館等の被災文化財資料の再生作業	通年	16,734点 (平成30年度中の修復見込み)	平成31年3月末までに約23万点の修復を予定し、今後再生措置が必要な資料約26万5千点が保管されている。

平成31年度岩手県立博物館事業計画概要

事業計画概要(主なもの)

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数		
展示	常設展示	展示替えの促進	通年	一般等		
	第70回企画展	「武家の装い(仮題)」(歴史部門)	9/21~11/24	一般		
	テーマ展	「古・岩手のクロガネ(仮題)」(考古部門) 「化石の水族館(仮題)」(地質部門)	6/8~8/18 3/20~5/6	一般		
	移動展	文化振興事業団事業所合同展	未定	一般		
教育普及	講演会 講習会 観察会	(1) 講演会 ア 文化講演会 イ 企画展特別講演会	11月3日 9月~11月	一般 "		
		(2) 文化財等取扱講習会	未定	"		
		(3) 観察会 ア 地質観察会(①・②未定) イ 自然観察会(①未定・②田野畑村)	① 7月・②10月 ① 7月・②9月	一般 "		
		ウ 県立博物館バックヤードツアー	5月	"		
		(4) 講座 ア 県博日曜講座 イ 古文書入門講座 ウ 考古学セミナー(講演会・現地見学会)	4月~3月(23回) 未定 7月~8月	一般 " "		
		(5) 県博出前講座	通年	"		
		(6) 学校教育との連携事業 ア 教材用資料貸出 イ ミュージアムシアター ウ チャレンジ!はくぶつかん	通年 4月~3月(11回) 4月~3月(54回)	学校 児童生徒 "		
		(7) 体験教室 ア たいけん教室 イ 冬のワクワク!ワークショップ	4月~3月(51回) 冬季	児童生徒 "		
		(8) 学芸員資格取得希望者に対する博物館実習指導	8月	大学生		
		情報発信	出版・広報	(1) 年報(ホームページ掲載)	5月	一般
				(2) 博物館だより(年4回発行)	6、9、12、3月	"
				(3) 行事案内リーフレット(年2回発行)	8月、3月	"
				(4) 子ども向け教育普及事業案内(年1回発行)	5月	学校
				(5) 新聞広告等の各種広報活動、ホームページの運営	通年	一般
				(6) イベントガイド	毎月1回	"
		被災文化財再生	科学分析保存 処理受託事業	震災で被災した文化財の安定化処理及び修復作業の実施	通年	被災博物館
自主事業	博物館まつり	博物館を身近に感じてもらう、リピータ化を促進するため、様々な体験教室や催し物を開催	10月	一般・児童生徒		
	ナイトミュージアム	普段見ることができない夜の博物館の魅力を知ってもらう	8月	児童生徒~一般		
	ミュージアムコンサート	生涯学習を推進するうえで、音楽を通して多様な文化活動を提供し博物館活動を盛り上げる	未定	児童生徒~一般		

(様式2-1)

平成30年度主要施策の実施状況(概要)

公所名 岩手県立美術館

説明者 副館長 小平 浩

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
(1) 県民の共通財産としての将来への継承	1) 収蔵美術品による常設展や他館等との連携による企画展を開催し、県民に国内外の優れた美術品の鑑賞機会を提供したほか、展示に関連付けた各種講座や体験教室等を通じて、芸術文化に対する理解と関心を高めることに寄与した。 2) 観覧者数は、大幅増となった前年度に比して反動減が現れている。引き続き、企画展コンテンツの充実、報道機関との連携強化を図るための取組が必要である。
(2) 調査・研究等の活動推進による本県評価の向上	1) 美術作品の収集選定や国内巡回展等の開催に当たり、国内外の作家及び作品の調査等を精力的に行うとともに、関係美術機関等との連携を通じて、芸術文化振興の拠点となるべく幅広い学芸知識・技術の蓄積が進んでいる。 2) 郷土出身作家に関わる美術史や教育普及事業についての研究のほか、収蔵作品等の修復保存活動にも一層傾注し、県民の財産の価値向上に努める必要がある。
(3) 県民が等しく鑑賞・参加・創造できる環境の整備	1) 県民が当館の情報に効果的・容易にアクセスできるよう、各種媒体を活用した多面的な広報活動を展開し、美術館活動のきめ細かな周知に努めている。 2) リピーターの確保や新たな来館者開拓に向けて、情報発信する内容を厳選・抽出の上構成するとともに、利用可能な媒体についても更に発掘していく必要がある。

2 重点事業の状況

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
展示事業	○県ゆかりの作家等収蔵コレクション展示	第1~4期	5,283人	・多彩なテーマに基づく収蔵品の紹介展示のほか、国内外の幅広い分野を網羅する企画展の開催を通じて、優れた美術鑑賞の機会を提供している。 ・観覧者数は通常年ペースに戻ったことから、今後はより訴求力を意識したラインナップ組成を期する必要がある。
	○多彩なテーマによる企画展開催			
	(1) ユニマットコレクション展	4/14- 6/17	7,488人	
	(2) うるわしき美人画の世界	6/30- 8/19	10,990人	
	(3) ブルーノ・ムナーリ展	9/8- 11/4	10,018人	
	(4) “うつわ”ドラマチック展	11/14-12/20	4,218人	
	(5) ますむらひろし展	1/3- 2/17	開催中	
(6) アートフェスタいわて2018	3/2- 3/24	開催予定		
教育普及活動事業	(1) ギャラリートーク、企画展関連講座	32回	1,167人	・概ね計画どおり実施しているが、観覧者数の動きにも連動して、参加者数が若干減少している。満足度はいずれも高い状態を維持している。 ・アウトリーチ対応の一層のノウハウ蓄積を期し、前倒ししての情報発信が必要である。
	(2) コレクショントーク、常設展関連講座	19回	204人	
	(3) スタジオプログラム(オープンスタジオ等)	12回	910人	
	(4) 教育プログラム(学生サポートスタッフ育成)	随時	87人	
	(5) 美術プログラム(館長講座、学芸員講座)	4回	138人	
	(7) 映像プログラム(アートシネマ上映会)	8回	661人	
	(6) アウトリーチ(出前授業、ワークショップ等)	7回	233人	
	(8) 来館者対応(一般団体・学校団体等)	54団体	1,801人	
自主事業	○利用促進事業			・新規事業は準備不足が要因となり、低調な結果となった。 ・定着した事業についても、常に新規性を意識した内容の工夫と企画が必要である。
	(1) 美 ² フェス2018、美術館まつり	各1回	3,385人	
	(2) ミュージアムコンサート	3回	449人	
	(3) ナイトミュージアムコンサート	3回	335人	
(4) ファミリータイム	18回	115人		

※参加状況は平成30年12月31日現在の実績値

平成31年度(岩手県立美術館)事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数		
展示	展示事業(常設展)	美術館収蔵コレクションのテーマ展示	年4期	一般		
	展示事業(企画展)	1 タータン 伝統と革新のデザイン	4/13 - 5/26	一般		
		2 広重展 -雨、雪、夜 風景版画の魅力をひもとく-	6/8 - 7/15	一般		
		3 ホキ美術館展	7/27 - 9/1	一般		
		4 深澤紅子展(仮)	9/14 - 11/10	一般		
		5 ジブリの大博覧会	11/30 - 2/16	一般		
	6 アートフェスタいわて2019	2/29 - 3/22	一般			
教育普及	教育普及活動事業	1 企画展関連 (1) ギャラリートーク (2) 関連講座	月2回程度 年12回程度	一般 一般		
		2 常設展関連 (1) コレクショントーク (2) 関連講座	月2回 年3回程度	一般 一般		
		3 美術普及 (1) スタジオプログラム 1) オープンスタジオ 2) アートデオヤコ (2) 教育プログラム 1) 学生サポートスタッフ受入れ・育成	年2回 月1回 随時	一般 未就学児と保護者		
		(3) 美術プログラム 1) 館長講座 2) 学芸員講座	年4回 年2回	一般 一般		
		(4) 映像プログラム 1) アートシネマ上映会 2) アートスペース、デジタルビジョン等	年8回 通年・随時	一般 一般		
		4 アウトリーチ (1) 美術館出前授業 (2) 美術関連研修講師派遣	随時 随時	一般 一般		
		5 来館者対応 (1) 美術館探検(てくてくツアー) (2) 一般団体対応 (3) 学校団体対応(小中高大・支援学校)	年6回 随時 随時	一般 一般 児童・学生		
		その他	広報事業	1 印刷媒体・ウェブ媒体による情報発信	通年	
				2 地域連携による情報発信	通年	
				3 収蔵品基本データ整備	通年	
		美術品保存修復事業	美術品保存修復事業	1 美術作品収集	随時	
				2 美術作品保存修復	随時	
				3 虫菌害環境調査	随時	
自主事業	自主事業	1 美術館まつり	年1回	一般		
		2 コンサート (1) ミュージアムコンサート (2) ナイトミュージアムコンサート	年4回程度 年4回程度	一般 一般		
		3 もりとびあねっと(施設連携事業) 参画	随時			

公所名 岩手県立県南青少年の家

説明者 事務局長 高橋 徹

1 総合的な成果と課題

項目	成果と課題								
1 主催事業、研修活動の充実	<p>(1) 「研修団体への事前連絡、ニーズに応える場の提供」 ○各団体からの要望にできるだけ対応するために、「利用の手引き」等の資料を活用しながら事前打合せを実施し、利用団体から概ね好評価を得ている。</p> <p>(2) 「施設ボランティア(アドバイザースタッフ)の育成のための研修活動の充実」 ○小・中学生対象事業と同時に養成講座を実施した。実際に子ども達とふれ合いながらの研修となり、その後、施設ボランティアとして登録した参加者も多くなった。</p> <p>(3) アンケートによるニーズの把握 ○利用者からの意見を職員間で共有し、速やかに対応することができ運営改善の参考としている。</p>								
2 利用の促進	<p>(1) 年度ごとに要覧、所報を作成し利用方法やプログラム例を提示 ○学年懇談会などが開催される時期にあわせて、県南・中部教育事務所管内小学校全児童数分配付したことで、学年レクや地区子供会の行事での申込みや問い合わせが増えた。</p> <p>(2) ホームページ、SNS (facebook) の活用 ○施設の空き状況や事業案内などの情報提供を行っている。HPを見て申込みをする団体も徐々に増えてきている。</p> <p>(3) 直接訪問による広報活動 ○幼稚園、学校不適合支援教室等を訪問し、活用例などの周知に努めており、利用する団体や問合せなどが徐々に増えてきている</p> <p>【利用者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H30 計画</th> <th>H30 実績(12月末)</th> <th>H29 実績(12月末)</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36,700人</td> <td>27,320人</td> <td>30,815人</td> <td>88.6%</td> </tr> </tbody> </table>	H30 計画	H30 実績(12月末)	H29 実績(12月末)	前年比	36,700人	27,320人	30,815人	88.6%
H30 計画	H30 実績(12月末)	H29 実績(12月末)	前年比						
36,700人	27,320人	30,815人	88.6%						
3 環境の整備、充実(安全の確保)	<p>(1) 「施設・設備の点検と計画的な修繕等」 ○定期及び随時の施設点検を行い、こまめな修繕の実施や設備・用具等の利用指導による安全の確保と事故防止に努めた。防犯視点からの点検も併せて実施した。</p>								

2 重点事業の状況(2~3)

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
自然ワンダークラブ	<p>異年齢で構成される集団が、さまざまな活動を体験することにより、自然や岩手の風土についての考えを深め、仲間・自然・岩手を大切にしようとする心を育てる。</p> <p><内容> 同じメンバーで1泊2日の体験を年4回実施。</p>	<p>①6月2日(土)~3日(日)</p> <p>②8月25日(土)~26日(日)</p> <p>③10月6日(土)~7日(日)</p> <p>④1月12日(土)~13日(日) ※未実施</p>	35名 (登録者)	<p>○受動的な活動とならないように自分自身の目標やグループのめあてなどを決めて活動した。自分の役割をしっかりと果たそうとする姿が多く見られた。</p> <p>▲活動内容が多くなり、時間的にゆとりのない日程になってしまった。活動内容について更に吟味して計画を立てる必要がある。</p>
ファミリートレッキング	<p>親子で初夏の山を舞台にトレッキングを楽しむことにより、相互の理解と関係を深める。</p> <p><内容> 国見山(北上市)周辺のトレッキング(シールラリー)</p>	6月10日(日)	29名	<p>○シールラリーカードを使用したことで、子どもたちは次のチェックポイントを目指しながら意欲的に参加することができた。また、無理のないコース選定で、初心者でも景観等を楽しむことができた。</p> <p>▲親子の交流や他の家族との交流をねらってグループ分けやゲームなどの活動をしたが、登山中に他の家族との交流はあまりできなかった。</p>
水と緑のフレンドシップ	<p>異年齢で構成される集団が野外活動を通して、主体的にたくましく生きようとする心を育成する。</p> <p><内容> 4泊5日で県南青少年の家を中心に実施。他施設や他団体と連携して、多様なプログラムを体験させる。</p>	7月28日(土)~8月1日(水)	33名	<p>○他施設、他団体との連携により多様なプログラム構成で実施することができた。自然の楽しさを感じながら大きな達成感を得られる事業となった。</p> <p>○アドバイザー(ボランティア)スタッフに参加者の安全面や精神面のサポートをもらった。参加者は、4泊5日の活動を大きな怪我もなく、全員元気に楽しく過ごすことができた。</p> <p>▲他施設を利用する際に、担当者が手続きを行っている間、参加者を待たせてしまう場面があった。事前に職員の役割分担などを確認するべきだった。</p>

※国立花山青少年自然の家(栗駒山登山・沢登体験)、奥州カヌー愛好会(胆沢ダム調整池カヌー・カヤック体験)

No.	領域	事業名	実施内容	期日	対象・定員
1	主催	「集団宿泊指導者研修会」	「野外活動、創作活動、情報交換」等	①5月8日(水) ②5月10日(金)	各回、利用団体関係者等 定員なし
2	主催	「アドバイザースタッフ 養成講座」	野外活動、ニュースポーツ、救命救急講習、仲間づくりゲーム、事業紹介等	6月1日(土)～2日(日)	高校、専門学校生、大学生 等 15人
3	主催	「自然ワンダークラブ」	① 「Wonder①～出会い～」 ウォークラリー、野外炊事等	6月1日(土)～2日(日)	各回、小学校4年生以上～ 中学生まで 30人 (第1回目で年間登録制)
			② 「Wonder②～挑戦～」 川遊び、創作活動等	8月24日(土)～25日(日)	
			③ 「Wonder③～深まり～」 登山、創作活動等	10月5日(土)～6日(日)	
			④ 「Wonder④～絆～」 雪遊び、スケート等	1月11日(土)～12日(日)	
4	主催	「かるがも親子体験教室」	「親子de アウトドアクッキング」 野外炊事、創作活動等	7月6日(土)	小・中学生の子どもをもつ 家族25家族(50人程度)
			「キャンプdeチャレンジ」 テント泊、野外活動等	8月10日(土)～11日(日)	小・中学生の子どもをもつ 家族20家族(40人程度)
5	主催	「水と緑のフレンドシップ」	キャンプ体験、野外炊事、川遊び、創作活動、キャンプファイア等	7月27日(土)～31日(水)	小学校5年生以上～中学生 まで 30人
6	主催	「宿泊通学合宿」	ニュースポーツ、科学実験、創作活動、学習等	11月17日(日)～20日(木)	永岡・西小学校5、6年生 30人
7	主催	「親子de 手作りクリスマス！」	「親子でクリスマスキャンドル創作」	11月30日(土) 午前	各回、小学生の子どもを持つ 家族15家族(30人程度)
			「親子でクリスマスリース創作」	11月30日(土) 午後	
			「親子でクリスマスキャンドル創作」	12月1日(日) 午前	
			「親子でクリスマスリース創作」	12月1日(日) 午後	
8	主催	「冬のおもしろ体験ランド」	創作活動、スキー、スケート等	1月25日(土)～26日(日)	小学校4年生以上～中学生 まで 30人
9	主催	「県南 は～とふるDay」	創作活動、ニュースポーツ等	通年	各学校適応指導教室 定員なし ※出前講座として実施
10	自主	「トレッキング」	春山トレッキング	5月16日(木)	各回 一般 20人
			ファミリートレッキング	6月8日(土)	小学生とその家族 6家族24名程度
			栗駒山トレッキング	9月25日(水)	各回 一般 20人
			秋山トレッキング	10月10日(木)	各回 一般 20人
11	自主	県南青少年の家所長杯 「サッカーフェスティバル」	サッカー競技	①6月22日(土)～23日(日) ②9月21日(土)～22日(日)	サッカースポーツ少年団 16チーム
12	自主	「みどりのキャンパス ・ふれあいフェスティバル」	「ダッチオープン de ピザづくり体験」 創作活動、ニュースポーツ、川遊び、食の祭典等。	9月2日(日)	子ども～一般まで 定員なし
14	自主	「親子deチャレンジ！」	3所合同事業 親子で創作体験、スポーツ体験等	8月3日(土)～4日(日)	小・中学生の子どもを持つ 家族6家族24人程度
15	自主	「レッツ!スケート」	スケート講習会&自由滑走	①1月11日(土) ②1月25日(土)	各回、小学生以上、家族、 一般 50人

※「領域」の「主催」は、主催事業。「自主」は、自主事業のこと。

平成 30 年度主要施策の実施状況 (概要)

公所名 岩手県立陸中海岸青少年の家

説明者 事務局長 高橋 徹

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題								
1 主催事業・活動内容の充実	<p>(1)地域の復興に合わせた海を活用した活動の拡大</p> <p>○山田町「浦の浜海水浴場」において、今年度は「海の子野外教室」と「親子でエンジョイ海1 day」を実施した。どちらも「山田町教育委員会生涯学習課」と連携し、普段体験することの出来ない海洋スポーツ（サップ、シーカヤック、バナナボート）を組み入れ、きめ細かく指導して頂いたおかげで充実した事業展開を図ることができた。海という地域環境を活用し、満足度の高い事業にすることが出来た。</p> <p>(2)地域の人材、関係団体との更なる連携と利用者ニーズを踏まえたプログラムの企画</p> <p>○地域の人材を活用したプログラム推進を行った。関係諸団体との連携を密にし、協力し合うことでさまざまな事業展開を図ることが出来た。（そば打ち体験、ネイチャーゲーム体験、海洋スポーツ体験、鮭ヶ崎灯台内見学等）</p>								
2 利用の促進	<p>(1)お客様管理によるリピーターの確保と保育施設（幼児）の利用拡大</p> <p>○事業参加者の中で希望する方には登録していただき、ダイレクトメールで事業案内を送信するようにしたところ、リピーターとして参加して下さる方が増えた。（トレッキングや創作広場等）</p> <p>○今年度よりスタートした幼児期の運動プログラム「マリン・キッズ」は複数の保育施設より依頼があり好評だった。</p> <p>(2)フェイスブックとブログによる広報の継続</p> <p>○事業前には開催予定事業の案内、事業後には開催した事業の様子等を発信し広報することができた。</p> <p>【利用者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H30 計画</th> <th>H30 実績 (12 月末)</th> <th>H29 実績 (12 月末)</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28,431 人</td> <td>19,280 人</td> <td>21,681 人</td> <td>88.9%</td> </tr> </tbody> </table>	H30 計画	H30 実績 (12 月末)	H29 実績 (12 月末)	前年比	28,431 人	19,280 人	21,681 人	88.9%
H30 計画	H30 実績 (12 月末)	H29 実績 (12 月末)	前年比						
28,431 人	19,280 人	21,681 人	88.9%						
3 環境の整備充実（安全の確保）	<p>(1)施設・設備の点検強化と安全の確保並びに計画的な改修等</p> <p>○体育施設管理士資格者による点検・指導のほか自主点検を実施（ダブルチェック体制の充実）した。防犯視点からの点検も併せて実施した。</p> <p>▲建物・設備の老朽化に伴い、引き続き計画的な改修・更新の実施、予算の確保が必要である。</p>								

2 重点事業の状況 (2~3)

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
「海釣り道場」	三陸の自然の中で、海釣りの醍醐味を味わい、参加者相互の交流を深める。 船釣り（経験者向け）、堤防釣り（初心者向け）等	5月5日(土)～6日(日)	46名	○今年度も夜釣りを取り入れたことで釣果があり、参加者に喜んでいただくことができた。参加の仕方も4コースに設定し、それぞれのコースとも参加者の高い満足度を得ることができた。
「マリンランド陸中自然体験塾①海の子野外教室」	自然体験活動を通して、思いやりの心や自然を大切にすることを育み、参加者相互の交流を図る。 海洋スポーツ体験、ネイチャーゲーム、テント泊、沢登り等	8月1日(水)～3日(金)	45名	○今年度は、海洋スポーツ体験をメインプログラムに取り入れたことで海での活動がより充実したものとなり、夜のネイチャーゲームも新鮮で、参加者には好評であった。関係団体との連携で充実した内容の事業となった。
「親子でエンジョイ海1 day」 ※新規事業	海での親子共同体験活動を通して、親子のふれあいを深める。 バーベキュー、スイカ割り、海洋スポーツ体験、いかだ遊び、砂遊び等	8月5日(日)	31名	○浦の浜海水浴場で、小学校低学年の親子を対象とした海の事業を新規で実施した。内陸からの参加者も多く、海洋スポーツ体験を取り入れた活動的なプログラム展開で、高評価を得ることができた。

No.	領域	事業名	実施内容	期日	対象・定員
1	主催	自然体験活動セミナー	・火おこし体験・野外炊事・ウォークラリー ・テント設営・沢登りコース見学等	①4月25日(木)②5月9日(木)	当施設利用団体 担当教員
2	主催	海釣り道場	A:日帰り船釣りメインコース B:1泊2日船釣りメインコース C:日帰り堤防釣りメインコース D:1泊2日堤防釣りメインコース	5月4日(土)～5日(日)	小学生～一般 60名程度
3	主催	家族ふれあい塾	・アウトドアクッキング等	5月11日(土)	10家族
4	主催	マリンランド陸中杯 グラウンド・ゴルフ交流会	グラウンド・ゴルフ交流会	① 5月23日(木) ② 9月 5日(木) ③10月 3日(木)	概ね 50歳以上の方 各回100名程度
5	主催	アドバイザースタッフ セミナー	・いかだ体験・ナイトハイク・沢登り ・火おこし体験・野外炊事など	7月20日(土)～21日(日)	高校・大学生・一般 15名程度
6	主催	マリンランド陸中自然体験塾 ①海の子野外教室 ②雪ん子野外教室	①海洋スポーツ・海水浴・いかだ遊び・ テント設営・ナイトハイク・沢登り等 ②スキー、スケート、雪遊び等	①7月30日(火)～ 8月1日(木) ②1月8日(水)～10日(金)	①②とも小学5・6年生 各回30名程度
7	主催	季節の味わい ～和菓子作り～	季節の和菓子作り	2月1日(土) ① 9:30～ ②13:00～	小学生～一般 各回25名程度
8	主催	ハートフルキャラバン	・創作活動(プラ板・森の贈り物・マリン キャンドル等) ・ニュースポーツ(輪投げ・ニチレク ボール・スカイクロス等)	通年	不登校及びひきこもり 傾向にある児童・生徒 定員なし(保護者同伴可)
9	主催	やまびこキャラバン	・創作(プラ板・森の贈り物他) ・ニュースポーツ (シャフルボード・キンボール他) ・もちつき体験	通年	子ども～大人 概ね 10名以上
10	自主	ワンダフルネイチャー ①鯨山登山(山田町) ②兜明神岳登山(宮古市区界) ③月山トレッキング(宮古市)	①鯨山登山 ②兜明神岳登山 ③月山トレッキング	① 4月20日(土) ②10月19日(土) ③11月 9日(土)	小学生～一般 各回 30名程度
11	自主	3施設連携事業 「親子 de チャレンジ!」	・海洋スポーツ体験・海水浴 ・夕食交流会 ・「鯨と海の科学館」見学 ・創作体験「ハーバリウム作り」等	8月3日(土)～4日(日)	小学生の子どもを 持つ家族 7家族28名程度
12	自主	マリンランド陸中フェスタ 「感謝まつり」	・ミニ発表会・創作・ニュースポーツ体験 ・火おこし体験・もちつき体験等	10月6日(日)	定員なし
13	自主	(仮称)親子でエンジョ イ1day夜釣り 《新規事業》	・「鯨と海の科学館」で体験活動・見学 ・夜釣り(堤防釣り)等	11月23日(土)	中学生までの子どもを 持つ親子 10家族40名程度
14	自主	創作ひろば～アイデアとアレ ンジでXmas&お正月飾り～	・クリスマス飾り・お正月飾り	①12月1日(日) ②12月8日(日)	幼児・小学生～一般 ①②とも 30名程度
15	自主	第41回陸中海岸 剣道スポーツ少年団交歓会	剣道交流試合	2月8日(土)～9日(日)	宮古・山田・大槌・釜石の 剣道スポーツ少年団 150名程度
16	自主	第17回マリンランド陸中 フットサル交流会	フットサル交流試合	2月15日(土)・16日(日)	沿岸地区のサッカー スポーツ少年団 14チーム程度
17	自主	第13回マリンランド陸中 ミニバスケットボール交流会	ミニバスケットボール交流試合	2月29日(土)・3月1日(日)	山田町および近隣市町 村のミニバスケットボール スポーツ少年団の 新人20チーム程度

※「領域」の「主催」は、主催事業。「自主」は、自主事業のこと。

平成 30 年度主要施策の実施状況 (概要)

公所名 岩手県立県北青少年の家

説明者 事務局長 高橋 徹

1 総合的な成果と課題

項目	成果と課題															
1 主催事業・研修活動の充実	<p>(1) 自然環境や施設の特性を生かした研修内容の充実 ○カーリング研修を行う学校が増えてきている。短時間でその魅力に迫ることができることから、今後更に広まることが期待される。</p> <p>(2) 団体等の研修目的や活動計画に対応した活動支援の充実 ○事前打合せや活動中の連絡調整を密に行うことを心がけた。団体からは、支援に対する満足の声を多くいただいている。</p> <p>(3) 時代の要請や地域社会の課題に対応した活動支援と研修内容の開発 ○「卓球バレー」を新しく取り入れた。高齢者団体だけではなく、三世代交流のプログラムとして行う団体もあり、好評を得ている。</p>															
2 利用促進	<p>(1) 青少年の生きる力を育む自然体験活動の充実 ○施設内の森林を活用したウォークラリーは、自然体験に加え、コミュニケーション活動が活発に行われる要素があることから、利用団体から高い評価を得ている。</p> <p>(2) 広報活動の強化 ○来所者への次回利用案内、各種団体や学校への訪問活動や電話連絡等、直接的な広報活動が新規利用へとつながった例が多くあった。 【利用者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30 計画</th> <th>H30 実績 (12 月末)</th> <th>H29 実績 (12 月末)</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修利用</td> <td>28,900 人</td> <td>20,361 人</td> <td>26,415 人</td> <td>77.1%</td> </tr> <tr> <td>スケート場</td> <td>17,700 人</td> <td>9,039 人</td> <td>8,111 人</td> <td>111.4%</td> </tr> </tbody> </table>		H30 計画	H30 実績 (12 月末)	H29 実績 (12 月末)	前年比	研修利用	28,900 人	20,361 人	26,415 人	77.1%	スケート場	17,700 人	9,039 人	8,111 人	111.4%
	H30 計画	H30 実績 (12 月末)	H29 実績 (12 月末)	前年比												
研修利用	28,900 人	20,361 人	26,415 人	77.1%												
スケート場	17,700 人	9,039 人	8,111 人	111.4%												
3 環境の整備・充実 (安全の確保)	<p>(1) 定期点検と日常点検(日に2度の巡回、警備員の巡回)を実施し、必要に応じて速やかな補修・修繕等を行う。 ○計画通り行っている。特に悪天候の後には、屋外を重点的に点検し、活動の安全確保に努めた。</p> <p>(2) 熊や蜂、ヘビなど危険動物へは利用団体の活動前に点検を行うことで安全を確保する。また、Jアラート等へはマニュアルにより適切な対応を行う。 ○蜂及びヘビの発見があり、活動内容や会場を変更する場面があった。利用者からは理解をいただき、より安全な環境で充実した活動を行うことができた。</p> <p>(3) 環境や安全に関する注意箇所や注意事項等の情報を適宜掲示することにより「見える化」を図り、職員の説明に加えて利用者自身が常に確認できる環境を整える。 ○表現や図、写真の工夫を行い、掲示物の更新を進めた。掲示を見た利用者からの問い合わせも多くなり、「見える化」の目的に迫る効果が表れている。 ▲施設設備の老朽化に伴い、安全点検の励行と計画的な修繕が更に必要である。</p>															

2 重点事業の状況(2~3)

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
ジュニア フォレストーズ 大作戦	森林に関する学習や体験活動等を季節ごとに行うことにより、自然を大切にすることを育み、環境保全の実践意欲を育てる。 【3回シリーズのキャンプ】	①6月2日(土) ~3日(日) ②9月8日(土) ~9日(日) ③1月26日(土) ~27日(日)	①33名 ②28名 ③未実施 【登録者】 36名	○テーマに迫るプログラムを設定し、参加者の意欲向上を図ることができた。 ▲5年サイクル等でのテーマ設定も一つの方法として考えられる。
プラネタリウム 鑑賞デー	季節の星座紹介など、プラネタリウム鑑賞を通して、天文や宇宙への興味を喚起する。 【他事業と同日開催】	①7月7日(土) ②9月22日(土) ③12月9日(日)	①69名 ②67名 ③89名	○創作活動等も加えることで、家族連れをはじめ、幅広い年代の方々に楽しんでいただくことができた。 ▲今後とも、投影内容の研修を継続していきたい。
ステラパル 冬まつり	施設を一般開放し、日頃の利用に感謝するとともに、冬季の遊びや活動を体験する場を提供する。	2月17日(日)	(未実施)	

No.	領域	事業名	実施内容	期日	対象・定員
1	主催	野外活動セミナー	施設利用説明、館内外見学、野外炊事体験、野外活動説明・体験、プログラム相談	5月8日(水)	定員設定なし 利用予定団体の担当者等
2	主催	ジュニアフォレストーズ大作戦	森林学習、自然体験、創作活動、野外炊事等	①6月1日(土)～2日(日) ②9月7日(土)～8日(日) ③1月25日(土)～26日(日) 【1泊2日】	【年間登録制】 小学校4～6年生 40人程度
3	主催	親子でアウトドアチャレンジ	トレッキング、野外炊事、館内テント泊、交流会	6月15日(土)～16日(日) 【1泊2日】	小学生とその家族 40人程度
4	主催	わんぱく広場	魚つかみ、魚さばき、魚焼き、昼食	6月30日(日)	60人程度
5	主催	サマーにここにキャンプ	室内テント泊、森の探検、野外炊事、プラネタリウム鑑賞、星空観察、創作活動	①7月6日(土)～7日(日) ②7月13日(土)～14日(日) 【1泊2日】	小学校2～3年生 各回 40人程度
6	主催	サマーチャレンジキャンプ	仲間づくり、山登り、野外活動、海遊び、川遊び、キャンプファイヤー、創作体験	7月29日(月)～8月1日(木) 【3泊4日】	小学校4～6年生、 中学生 30人程度
7	主催	親子でアウトドアクッキング	仲間作り、野外炊事、昼食	9月29日(日)	親子20組、60人程度
8	主催	スケート場感謝デー	入場料・貸靴料無料、スケート自由滑走、スケート教室、カーリング体験、アイスホッケー体験、フィギュアデモンストレーション	11月3日(日)	定員設定なし
9	主催	だれでもスケート教室	初心者・初級者対象のスケート教室	①11月10日(日) ②11月17日(日) ③11月24日(日)	各回 60人程度
10	主催	だれでもカーリング教室	カーリング教室、ミニゲーム	12月8日(日)	50人程度
11	主催	スケートキッズ感謝デー	中学生以下の入場料・貸靴料無料 スケート自由滑走、スケート教室	12月22日(日)	定員設定なし
12	主催	ステラパル冬遊塾	スケート体験、カーリング体験、そり遊び、雪遊び	1月7日(火)～9日(木) 【1泊2日】	小学校3～6年生 40人程度
13	主催	ウインタースクール	仲間づくり、雪遊び、スケート体験、調理体験、星空観察、雪灯り	2月8日(土)～9日(日) 【1泊2日】	小学校1～2年生 40人程度
14	自主	ステラパル春まつり	施設見学、創作体験、ニュースポーツ体験、茶道体験、プラネタリウム鑑賞、ステージ発表	5月12日(日)	定員設定なし
15	自主	いきいき グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフ大会、昼食交流会	①5月23日(木) ②9月19日(木)	二戸・久慈地区の グラウンド・ゴルフ愛好者 ①・②とも100人程度
16	自主	プラネタリウム鑑賞デー	季節の星座紹介に加えて ①七夕のお話 ②お月さまのお話 ③クリスマスのお話	①6月30日(日) ②9月29日(日) ③12月8日(日)	①～③とも 1日2～4回投影 各回50人程度
17	自主	親子deチャレンジ! 【会場：陸中海岸青少年の家】	いかだ作り、海水浴、シーカヤック体験、夕食交流会	8月3日(土)～4日(日) 【1泊2日】	小学生の子どもをもつ家族 6家族24人程度
18	自主	レッツ！折爪トレッキング	折爪岳のトレッキング	10月12日(土)	40人程度
19	自主	ステラパル冬まつり	施設見学、創作体験、スポーツ体験、雪遊び体験、プラネタリウム鑑賞	2月16日(日)	定員設定なし

※「領域」の「主催」は、主催事業。「自主」は、自主事業のこと。

第2回生涯学習審議会・社会教育委員会議
協議「今後求められる施策の方向性について」

H30～H31 協議テーマ

「次代の岩手を創造する人づくり・地域づくりの推進～社会の変動に対応し、岩手らしさを生かした生涯学習・社会教育施策の方向性について～」

1 今回の小テーマ

- (1) 学びと活動の循環により地域活性化を図る視点・方法について
(2) (1)のうち、教育分野の枠を超えた人づくり・地域づくりを進めるための視点・方法について

2 テーマについて

(1) 設定の理由

協議テーマをもとに、岩手県民計画(2019～2028)・(仮称)岩手県教育振興計画(H31.3策定予定)に盛り込んだ方策を効果的に実行するために、小テーマとして設定したもの

(2) 経過と今後の展開

- ①H28・29年度の岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議の協議
「学校を核とした地域創生～学校と地域の連携・協働の在り方と推進方策について～」
②本年度、第1回会議の協議内容 [各委員からの意見(A)～(I)(別紙1)]
③各方面よりいただいた意見

可能な限り、意見の主旨を計画に盛り込む形で中間案を策定(別紙2)

計画を効果的に実行していくために、今回さらに御意見をいただき、整理

【御意見をいただきたい部分の抜粋】

(基本方向)

生涯を通じて楽しく学ぶことができ、一人ひとりの学びを地域コミュニティの再生・維持・向上や地域の課題解決に役立てていくため、情報通信技術(ICT)を活用した学習情報の提供等や、「地域学校協働活動」への参加の促進などにより、多様な学習機会の充実を図り、学びの成果を地域の活性化につなげる仕組みづくりを推進します。

(県が取り組む具体的な推進方策)

「③ 学びと活動の循環による地域の活性化」

地域づくり人材の育成のため、県立生涯学習推進センターを活用し、教育分野の枠を超えた地域づくりに関する研修・交流の場を提供します。

【展開の方向】

県民が生涯を通じて学び続けられるとともに、地域づくりへ積極的に参画できる環境づくりのため、県として、学びと活動の循環を図り、教育分野を超えた人づくり・地域づくりの視点をさらに広げながら展開しようとするもの。

【次年度の取組】

今回いただいた御意見を整理し、次年度にかけて、計画に位置付けた生涯学習・社会教育施策の方向性や具体的推進方策をさらに明確にしていく

「個人差や地域差がとても大きいと考えているので、岩手県の強み、弱みという枠組みで一括して考えるのは適切でないと思う。」「岩手の中の地域格差というのを非常に痛感している。同じ県内でも地域の状況が違うということを認識した中で、社会教育を推進してほしい。」「どこに住んでいても岩手の子どもたちが大事にされる、そんな社会教育であってほしい。」… (A)

「今、政策的に非常に深い所を狙って教育改革が進んでいるので、支援する側に対する支援も含めて工夫を考えていかなければならないのではないかな。」… (B)

「地域の活動には60代、65歳を過ぎないと参加がむずかしい状況があり、地域活動の担い手不足に悩んでいる。子どもたちに地域の良さを伝えるなど取組をしているが、こうした活動をこれからどう人材育成につなげていくかが課題である。」… (C)

「地域に役立っているという想いが、生きる力になっているということを感じている。全国と比べても、岩手はそういう面ではつながりが深いといつも考えている。地域差は色々あり、様々な人が住んでいれば考えもそれぞれ違うということもわかるが、決して人間関係が希薄になっているという捉えではなく、年代を超えたところでつながりをもちながら、それぞれの地域で岩手の良さを生かした取組が進んでいけば良いのではないかな。」… (D)

「県立学校の魅力化について、これ以上、学校がたくさんの事を抱えていくことは難しい。いかに地域に頼るかということ。全国から、岩手県のあの高校に行きたいと思われるようにしていかなければならない。これからは、本当に大きな改革が高校に求められている。」… (E)

「子ども達の自己肯定感が低いということ。それを何とか高めていくためにも、地域の力を借りて、色々な関わりをつくっていくことをやっていきたい。理想としては、地域の方々に学校へ足を踏み入れてもらい、学校活動にも力を貸していただく。また、子どもたちからも地域への発信を進めていく。そのようなことがスムーズにいくと、コミュニティー・スクールも進んでいくのではないかな。」… (F)

「地域の方は、かわいい子どもたちを何らかの形で見守っていきたいと思っている。学校支援事業のボランティアとして子どもたちに携わっていくことができるのは、本当にうれしいと皆さん言っている。気兼ねなく子どもたちと関わるができるよう、学校と地域、行政の関わりをスムーズにすることが必要。子ども達も異世代の方々との交流で得るものはとても多いので、大事にしたい取組だ。」… (G)

「岩手では、多様な伝統芸能が継承されている。若い世代が知っていることは強みであり、生涯教育の施策の中でも、そのようなことをリンクさせながら、活動ができたらいのではないかな。」… (H)

「新しい切り口、新しい捉え方、新しい見方をするといったイノベーションから入るという内容。企業が機の置き方を変えただけで、2割売り上げがアップした。そういう発想の転換というのは、おもしろいと思う。」… (I)

（基本方向）

生涯を通して楽しく学ぶことができ、一人ひとりの学びを地域コミュニティの再生・維持・向上や地域の課題解決に役立てていくため、(I) 情報通信技術（ICT）を活用した学習情報の提供等や、「地域学校協働活動」への参加の促進などにより、多様な学習機会の充実を図り、学びの成果を地域の活性化につなげる仕組みづくりを推進します。

「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を実現するため、(G) 地域学校協働活動の充実等により、学校・家庭・地域が連携・協働する仕組みづくりを進めます。

また、子どもたちが放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動ができるよう、放課後子ども教室等により、地域の実情に応じた子どもの学びの場づくりを支援します。

(F) 児童生徒一人ひとりが、自他の生命（いのち）を大切にし、他者の人権を尊重する心や、良好な人間関係を構築できる協調性を育むため、道徳の指導の充実や教育振興運動と連携した他者との協働活動等により、実践的な道徳教育を進めるとともに、家庭や地域との協働によるボランティア活動や読書活動の充実により、思いやりの心や感動する心を育成します。

(E) (F) 地域とともにある学校、魅力ある学校づくりを進めるため、目標達成型の学校経営や学校・家庭・地域の連携・協働の仕組みであるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の取組などを推進します。

（県が取り組む具体的な推進方策）

① 多様な学習機会の充実

- ・ 生涯を通じて楽しく学ぶ基盤づくりのため、読書ボランティアと連携した読み聞かせなど、幼少年期の読書活動を推進します。
- ・ 「いつでも・どこでも・だれでも」生涯を通じて学び続けられる環境づくりのため、(A) 市町村と連携を図りながら、県立生涯学習推進センター等による、情報通信技術（ICT）を活用した学びの機会や活躍の場等に関する情報の集積・提供など、学習情報提供の仕組みを一層充実させます。
- ・ (A) 障がい者の生涯を通じた学習活動や、特別な事情により就学困難な生徒等の学習機会の充実を図るため、学習ニーズに個別に応じた学習相談や情報提供を行います。
- ・ 県民の主体的な学びを支援するため、図書館において資料・情報の収集・活用の促進を図り、利用者の学習活動を援助するレファレンス業務を充実します。

② (H) 岩手ならではの学習機会の提供

県民一人ひとりの郷土に対する誇りや愛着を醸成するため、社会教育施設等において豊かな自然、文化、歴史等の資源をテーマとした公開講座を開催するなど、岩手ならではの学習機会の提供に取り組みます。

③ 学びと活動の循環による地域の活性化

- ・ (D) 県民一人ひとりが生涯学習で学んだ成果を地域課題の解決等に役立てるなど、学びと活動の循環を促すため、「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を推進するフォーラムの開催など、学校運営協議会制度を導入したコミュニティ・スクール や教育振興運動 を中核とした「地域学校協働活動」への参加促進に取り組みます。
- ・ (C) 地域の活性化に向けた仕組みづくりを進めるため、PTAをはじめとする各種社会教育関係団体の活動の支援を行うとともに、団体相互の連携・協力に向けた交流の機会を提供します。
- ・ (C) 地域づくり人材の育成のため、県立生涯学習推進センターを活用し、(I) 教育分野の枠を超えた地域づくりに関する研修、交流の場を提供します。

④ 社会教育の中核を担う人材の育成

県民の生涯を通じた学習活動を支援するため、公民館の社会教育指導員や(B) 地域学校協働活動推進員などの指導者研修会を開催するとともに、研修会での交流などを通じた指導者相互のネットワーク化を図り、社会教育の中核を担う人材を育成します。

⑤ 多様な学びのニーズに応じた拠点の充実

県民一人ひとりが学びたい時に学べる環境を提供するため、博物館等の県立社会教育施設のハード面、ソフト面の充実を計画的に進め、様々な世代や多様な興味関心など、幅広い学びのニーズに応じた学習機会を提供する拠点づくりを進めます。

⑥ 家庭教育を支える環境づくりの推進

- ・ 子育てや家庭教育に悩みや不安を抱える親を支援するため、電話やメールによる相談窓口を設置するとともに、メールマガジン等による家庭教育に役立つ情報などの提供や、教育に関する意識啓発に取り組みます。
- ・ 子育て支援に関わるグループ・団体・NPO等や企業との連携・協力、協働を図るため、(B) 子育てサポーター等の資質向上やネットワークづくりに向けた研修等を実施します。

⑦ 学校・家庭・地域の連携の仕組みづくり

- ・ 「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を実現するため、教育振興運動の再構築やコミュニティ・スクールの推進などを通して、地域学校協働活動の充実等に取り組みます。
- ・ 地域学校協働活動を持続的な取組とするため、市町村における地域と学校をつなぐコーディネート人材の配置を支援します。

⑧ (H) 豊かな体験活動の充実

- ・ 子どもたちに放課後等の学習の場を提供するため、日常的に児童生徒が利用する放課後子ども教室や放課後児童クラブ等による居場所づくり、教育振興運動等による多様な体験活動に取り組みます。
- ・ 子どもたちの体験学習の場を提供するため、青少年の家などの社会教育施設等を活用した自然体験活動などの体験活動の充実に取り組みます。
- ・ 子どもたちの豊かな体験活動を充実するため、特色ある体験活動事例を市町村等に情報提供するなど、取組の拡充を図ります。

⑨ (H) 学校・家庭・地域が連携した体験活動の推進などを通じた豊かな心の育成

- ・ 幼児児童生徒が達成感や成功体験を得たり、課題に立ち向かう姿勢を身につけることができるよう、教育振興運動と連携した自然体験・奉仕体験等への参加を促進するなど、学校・家庭・地域が連携した多様な体験活動を推進します。
- ・ 素直に感動できる豊かな情操を育てるため、児童生徒が多くの本に触れ、読むことの楽しさを実感できる読書活動や、読書ボランティアと連携した読み聞かせ、学校司書の配置の拡充による学校図書館を生かした読書活動等の充実に取り組みます。

⑩ 目標達成型の学校経営の推進

地域とともにある学校づくりを推進するため、「まなびフェスト」や学校、家庭、地域が連携した学校運営協議会を導入したコミュニティ・スクール等の仕組みの活用を図るとともに、学校経営計画で設定した目標の達成状況等の評価結果を広く公表し、学校運営の改善に取り組みます。

※ (A)～(I)は、各委員の発言（別紙1）の趣旨を反映した部分

岩手県次期総合計画 第1期アクションプラン (中間案)の概要

次期総合計画の構成

長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなが目指す将来像と、その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするもの

[計画の期間：2019年度から2028年度の10年間]

長期
ビジョン

復興推進プラン(仮称)の概要

復興推進プランの構成

「より良い復興～4本の柱～」のもと、12分野ごとに、計画期間に実施を予定している主な取組内容と事業を掲載

I 安全の確保	1 防災のまちづくり	2 交通ネットワーク
II 暮らしの再建	1 生活・雇用 3 教育・文化・スポーツ 5 市町村行政機能支援	2 保健・医療・福祉 4 地域コミュニケーション
III なりわいの再生	1 水産業・農林業	2 商工業 3 観光
IV 未来のための伝承・発信	1 事業・教訓の伝承 2 復興情報発信	

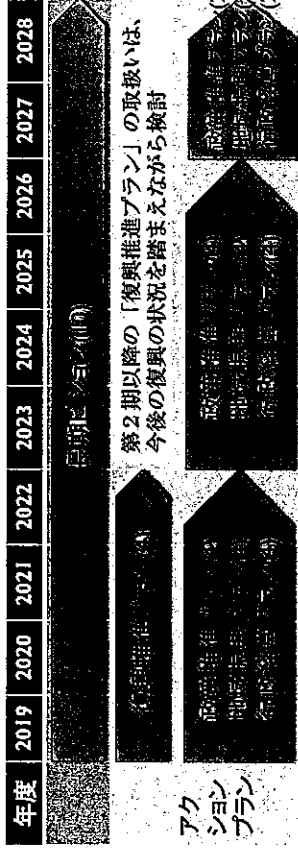
長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方を盛り込む。

アクション
プラン

[第1期：2019年度～2022年度]



※名称は仮称



() 内は期間年数

I 安全の確保～防災のまちづくり～

「津波対策の基本的考え方」を踏まえた多重防災型まちづくりにより、津波などの自然災害による被害を最小限に抑え、どのような場合でも人命と暮らしを守る安全で安心な防災都市・地域づくりを推進します。

また、住民の故郷への思いや地域の歴史、文化・伝統を踏まえた住民主体の新しいまちづくりを推進します。

- (取組項目)
1. 被害に強い安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくり
 2. 故郷への思いを生かした豊かで快適な生活環境づくり

I 安全の確保～交通ネットワーク～

災害時などの確実な緊急輸送や代替機能を確保した信頼性の高い道路ネットワークの構築と、人員・物資の輸送を支える港湾の機能強化により、災害に強い交通ネットワークの構築を推進します。

- (取組項目)
3. 災害に強い交通ネットワークの構築

II 暮らしの再建～生活・雇用～

被災者が安定した生活に戻る事ができよう、まちづくりと一体となった安全で良質な住宅や宅地を供給するとともに、住宅再建・確保に際して様々なニーズに対応するための相談対応を行います。

また、内陸地域と沿岸地域との連携のもとに地域の産業振興を図り、若者・女性・高齢者・障がい者を含め安定的な雇用の場を確保します。

- (取組項目)
- 4. 被災者の生活の安定と生活再建の場づくりへの支援
 - 5. 雇用の確保と就業支援

II 暮らしの再建～保健・医療・福祉～

被災者の心身の健康を守るため、医療提供施設や社会福祉施設などについて機能の充実を図るとともに、きめ細かな保健活動やこころのケア、保護を必要とする子どもへの養育支援などを実施します。

また、新たなまちづくりにおいて質の高い保健・医療・福祉サービスを継続的に提供する体制を整備します。

- (取組項目)
- 6. 災害に強く質の高い保健・医療・福祉提供体制の整備
 - 7. 医療の確保・推進、こころのケアの推進や養育環境の整備

5

III なりわいの再生～水産業・農林業～

地域に根ざした水産業を再生するため、両輪である漁業と流通・加工業について、新たな交通ネットワークを生かしながら、漁業協同組合を核とした漁業・養殖業の構築と産地市場を核とした流通・加工体制の構築を一体的に推進します。また、地域の防災対策や地域づくり、水産再生の方向性を踏まえた漁港・漁場などの整備や海岸保全施設の復旧・整備を推進するとともに、地域の防災対策を踏まえて防溺林を再生します。

沿岸の地域特性や地域づくりの方向性を踏まえた園芸産地の形成など、生産性・収益性の高い農林業を実現します。

- (取組項目)
- 4. 漁業協同組合と流通・加工業の連携、産地市場を核とした流通・加工体制の構築
 - 15. 産地市場を核とした流通・加工体制の構築
 - 16. 漁港などの整備
 - 17. 地域特性を生かした生産性・収益性の高い農林業の実現

III なりわいの再生～商工業～

被災地域の経済を支える中小企業などの事業再開や経営力向上に向けた取組を支援するとともに、新たなまちづくりと運動した商店街を核としたにぎわいの創出や地域の特性を生かした産業の振興を図ります。

また、沿岸地域と内陸地域との連携によるものづくり体制の強化や、地域特性を生かした科学技術や学術研究などにより地域経済の活性化を図ります。

- (取組項目)
- 18. 中小企業などの事業再開と経営力向上に向けた支援
 - 19. 産業の再生やものづくり産業などの振興

III なりわいの再生～観光～

被災した沿岸地域の観光産業の再生とともに、魅力あふれる観光地づくりを推進し、新たな交通ネットワークの活用などにより誘客を促進しながら、三陸の新たな魅力などを広く国内外へ情報発信することにより、観光立県を確立します。

- (取組項目)
- 20. 観光産業の再生と新たな魅力の創造
 - 21. 復興の動きと連動した全国的な誘客への取組

7

II 暮らしの再建～教育・文化・スポーツ～

学校、家庭、地域が協働して子どもたちの心のサポートを行うとともに、東日本大震災津波の体験を踏まえた防災教育や復興に対する自己のあり方などを総合的に学ぶ全体的な教育プログラムを推進することにより、子どもたち一人ひとりの学びの場の充実を図ります。

また、生きる活力を生み出し、地域への誇りや愛着を深めるため、文化芸術・スポーツ活動の振興や伝統文化などの保存・継承を支援します。

- (取組項目)
- 8. きめ細かな学校教育の実施と教育環境の整備
 - 9. 文化芸術活動の振興や伝統文化などの保存と継承
 - 10. 社会教育・生涯学習環境の整備
 - 11. スポーツ活動の振興
 - 12. 伝統文化の保存と継承

II 暮らしの再建～地域コミュニティ～

住民相互のコミュニケーションを維持するとともに、地域の結束力が更に強まるよう、復興のステージに応じた地域コミュニティ活動の環境を整備します。

また、全ての人が孤立せず、安心して地域で生活できるよう、高齢者や障がい者を住民相互で支え合う、福祉のまちづくりの観点も取り入れながら、地域コミュニティ活動の活性化に向けた取組を支援します。

さらに、被災地域等の住民、地域組織、NPO、企業など多様な主体が連携し、市町村と協働して進める復興のまちづくりを支援します。

- (取組項目)
- 12. 地域コミュニティの再生・活性化

II 暮らしの再建～市町村行政機能支援～

地域住民の安全・安心の確保のため、市町村の行政機能の向上と、市町村による新しいまちづくりを支援します。

- (取組項目)
- 13. 行政機能の向上

6

IV 未来のための伝承・発信～事実・教訓の伝承～

未曾有の大規模災害の事実や被災された方の方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

- (取組項目)
- 22. 教訓の伝承の仕組みづくり
 - 23. 防災・復興支援の仕組みづくり

IV 未来のための伝承・発信～復興情報発信～

将来にわたって復興への理解を深め、継続的な復興への参画を促進するため、復興の姿を国内外に積極的に発信していきます。

- (取組項目)
- 24. 復興の姿の重層的な発信

8

政策推進プラン（仮称）の概要

〔長期ビジョン〕基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながらお互いに幸福を守り育てる希望郷いわて



政策推進プランの構成

10の政策分野の客観的指標、県が取り組む具体的な推進方策、4年間の工程表、県以外の主体に期待される行動などで構成

9

III 教育

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手

- 【いわて幸福関連指標】
- ①学力が全国平均以上の児童生徒の割合
 - ②主体的に学ぼうとする児童生徒の割合
 - ③人が困っているときは進んで助けようと思う児童生徒の割合
 - ④自己肯定感を持つ児童生徒の割合
 - ⑤体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合
 - ⑥不登校児童生徒数
 - ⑦高卒者の県内就職率
 - ⑧将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合
 - ⑨県内学卒者の県内就職率
 - ⑩特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合

【政策項目】

- 11 学力向上のための取り組みを推進する
- 12 主体的に学ぼうとする児童生徒の割合を向上させる
- 13 困っている人を助ける文化を醸成する
- 14 自己肯定感の向上を図る
- 15 体力・運動能力向上のための取り組みを推進する
- 16 不登校児童生徒の減少を図る
- 17 高卒者の県内就職率向上を図る
- 18 将来の夢や目標を持つ児童生徒の割合を向上させる
- 19 県内学卒者の県内就職率向上を図る
- 20 特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合を向上させる

IV 居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手

- ①県外からの移住・定住者数
- ②汚水処理人口普及率
- ③三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数
- ④地域的な活動への参加状況
- ⑤在留外国人人口
- ⑥文化・スポーツ施設の入場者数

【政策項目】

- 21 移住・定住者数の増加を図る
- 22 汚水処理人口普及率向上を図る
- 23 三セク鉄道・バスの利用促進を図る
- 24 地域的な活動への参加促進を図る
- 25 在留外国人人口の増加を図る
- 26 文化・スポーツ施設の入場者数の増加を図る

11

I 健康・余暇

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手

【いわて幸福関連指標】

- ①健康寿命
- ②がん、脳血管疾患及び心疾患で死亡する人数
- ③自殺者数(10万人当たり)
- ④地域包括ケア関連
- ⑤余暇時間
- ⑥県内の公立文化施設における催事数
- ⑦スポーツ実施率
- ⑧生涯学習に取組んでいる人の割合

【政策項目】

- 1 生涯にわたって心身ともに健やかに生活できる環境をつくる
- 2 がん、脳血管疾患及び心疾患の予防を推進する
- 3 自殺や支那が減少するよう取り組む
- 4 地域包括ケアの推進を図る
- 5 生涯を通じて学び続けられる場をつくる
- 6 余暇時間の確保を図る
- 7 県内の公立文化施設における催事数の増加を図る
- 8 スポーツ実施率の向上を図る
- 9 生涯学習に取組んでいる人の割合の向上を図る

II 家族・子育て

家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手

- ①合計特殊出生率
- ②特待児童数
- ③地域の行事に参加している生徒の割合
- ④総実労働時間
- ⑤共働き世帯の男性の男性の家事時間割合
- ⑥大、猫の返還・譲渡率

【政策項目】

- 10 安心して子どもを生み育てられる環境をつくる
- 11 特待児童の減少を図る
- 12 地域の行事に参加している生徒の割合を向上させる
- 13 総実労働時間の短縮を図る
- 14 共働き世帯の男性の家事時間割合の向上を図る
- 15 動物の返還・譲渡率の向上を図る

10

V 安全

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手

- 【いわて幸福関連指標】
- ①自主防災組織の組織率
 - ②刑法認知知件数
 - ③交通事故発生件数
 - ④食中毒の発生人数

【政策項目】

- 16 自主防災組織の組織率向上を図る
- 17 刑法認知知件数の減少を図る
- 18 交通事故発生件数の減少を図る
- 19 食中毒の発生人数の減少を図る

VI 仕事・収入

農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手

- ①一人当たり県民所得の水準
- ②正社員の有効求人倍率
- ③総実労働時間【再掲】
- ④完全失業率
- ⑤従業員一人当たりの付加価値額
- ⑥開業率
- ⑦従業員一人当たりの製造品出荷額
- ⑧販売農家一人当たりの農業産出額
- ⑨販売農家一人当たりの林業産出額
- ⑩林業従事者一人当たり当たりの漁業産出額
- ⑪漁業経営体一経営体当たりの漁業産出額
- ⑫農林水産物の輸出額
- ⑬グリーン・ツーリズム交流人口

【政策項目】

- 27 一人当たり県民所得の向上を図る
- 28 正社員の有効求人倍率の向上を図る
- 29 総実労働時間の確保を図る
- 30 完全失業率の低下を図る
- 31 従業員一人当たりの付加価値額の向上を図る
- 32 開業率の向上を図る
- 33 従業員一人当たりの製造品出荷額の向上を図る
- 34 販売農家一人当たりの農業産出額の向上を図る
- 35 販売農家一人当たりの林業産出額の向上を図る
- 36 林業従事者一人当たり当たりの漁業産出額の向上を図る
- 37 漁業経営体一経営体当たりの漁業産出額の向上を図る
- 38 農林水産物の輸出額の向上を図る
- 39 グリーン・ツーリズム交流人口の増加を図る

12

Ⅳ 歴史・文化

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手

《いわて幸福関連指標》

- ①国・県指定文化財件数
- ②世界遺産等の来訪者数
- ③民俗芸能ネットワーク加盟団体数

《政策項目》

- 40 世界遺産の保存と活用を進めます
- 41 豊かな歴史や民俗芸能などの伝統文化を受け継がれる環境をつくりだします

Ⅳ 自然環境

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手

《いわてレッドデータブック希少種》

- ①自然公園の入場者数
- ②公共用水域のBOD管理基準達成率
- ③再生可能エネルギーによる電力自給率
- ④一般廃棄物の最終処分量
- ⑤一人一日当たり家庭系ごみ排出量

《政策項目》

- 42 多様で豊れた環境を守り、世界的に引き継ぎます
- 43 循環型地域社会の形成を進めます
- 44 地球温暖化防止に向け、地域社会の形質を進めます

地域振興プラン（仮称）の概要

県央広域振興圏

目指す姿

県都を擁する圏域として、産業・人・暮らしの新たなつながりを生み出す連携の深化により、求心力を高め、東北の拠点としての機能を担っている地域

《振興施策の基本方向》

I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域

《重点施策項目》

- 1 暮らしが安心・健康で安心して生活し続けられるような高い地域社会をつくり出す
- 2 豊かな環境を築き、自然の恵みを生かすことができる地域社会をつくり出す
- 3 歴史・文化を継承しながら、新たなつながりや活力を創りだせる地域づくりを進めます
- 4 過去の教訓を踏まえ、防災対策を進めます
- 5 安心・快適な移動環境を生活環境を進めます

II I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域

《重点施策項目》

- 6 産学官連携によるIT産業の育成をのぞく産業の集積に取り組めます
- 7 観光・スポーツなどの道徳と併せて、交通促進により地域産業を活性化します
- 8 農林水産物の加工・流通のインフラを整え、農産物の付加価値の向上を図ります
- 9 森林資源の有効利用促進を図る林業・木材産業の創出を進めます
- 10 地域産業の特性を生かした産業人材の育成・確保に取り組むことのできる労働環境を整備します
- 11 産業経済活動を支える交通・インフラのネットワークを整えます

Ⅸ 社会基盤

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤や環境が整っている岩手

《いわて幸福関連指標》

- ①モバイル端末(スマートフォン)の人口普及率
- ②河川整備率
- ③緊急輸送道路の整備延長
- ④港湾取扱貨物量
- ⑤社会資本の維持管理を行う協働団体数

《政策項目》

- 45 IT産業・情報技術を活用できる基盤を強化します
- 46 安全・安心を支える社会資本を整備します
- 47 産業・観光振興の基盤となる社会資本を整備します
- 48 生活を支える社会資本を適切に維持管理し、次世代に引き継ぎます

Ⅹ 参画

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手

- ①労働者総数に占める女性の割合
- ②障がい者の雇用率
- ③高齢者のボランティア活動比率
- ④共働き世帯の男性の家事時間割合【再掲】
- ⑤審議会等委員に占める女性の割合
- ⑥ボランティア・NPO・市民活動への参加状況

《政策項目》

- 49 性別や年齢・障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくり出す
- 50 幅広い市民活動や多様な主体による県民運動を促進します

県南広域振興圏

目指す姿

人とのつながり、県南圏域の産業集積や農林業、多様な地域資源を生かしながら、暮らしと産業が調和し、世界に向け岩手の未来を切り拓く地域

《振興施策の基本方向》

I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域

《重点施策項目》

- 1 暮らしが安心・健康で安心して生活し続けられるような高い地域社会をつくり出す
- 2 豊かな環境を築き、自然の恵みを生かすことができる地域社会をつくり出す
- 3 一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくり出す

II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域

《重点施策項目》

- 4 ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます
- 5 人材の交流促進により、働き手が定着し、地元定着を促進します

III 世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域

《重点施策項目》

- 6 地域の魅力の発信による交流を拡大します
- 7 本産業のブランドを活用し、交流人口の拡大を図ります
- 8 文化芸術を活かした地域づくりを進めます

IV 米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域

《重点施策項目》

- 9 企業経営体を中心とした収益性の高い産地の形成と協働・連携による農林地域の活性化を進めます
- 10 農林資源の有効利用により、林業・木材産業を振興します

沿岸広域振興圏

目指す姿

東日本大震災津波からの復興を着実に進め、その教訓を発信し、新たな交通ネットワークや様々なつながりを生かした新しい三陸の創造により、国内外に開かれた交流拠点として岩手の魅力を高め、広域でいく地域

《振興施策の基本方向》

- I 復興まちづくりが着実に進み、東日本大震災津波の教訓が伝承されている。災害に強い地域の創造に努めることにより、被災者の生活の向上を図る。
- II 地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域
- III 豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域

- 1 生活に必要不可欠なサービスの提供を確保し、安心して暮らせる地域をつくり出す。
- 2 地域包括ケアシステムの構築を進め、高齢者や障害者、子どもなど、誰もが安心して暮らせる地域をつくり出す。
- 3 豊かな自然環境や伝統文化、食文化などの魅力を発信し、観光や体験型産業の発展を図る。
- 4 豊かな自然環境や伝統文化、食文化などの魅力を発信し、観光や体験型産業の発展を図る。
- 5 豊かな自然環境や伝統文化、食文化などの魅力を発信し、観光や体験型産業の発展を図る。
- 6 豊かな自然環境や伝統文化、食文化などの魅力を発信し、観光や体験型産業の発展を図る。
- 7 豊かな自然環境や伝統文化、食文化などの魅力を発信し、観光や体験型産業の発展を図る。

行政経営プラン（仮称）の概要

1 行政経営の基本的な考え方

社会経済情勢が変化する中、県民の幸福を的確に捉え、県民サービスを安定的・持続的に提供していくため、多様な価値観に対応しながら、あらゆる主体が協働する県民本位の行政経営を展開します。

業務の効率的な運営や柔軟な働き方の推進を通じ、仕事と生活の調和を図り、職員的能力を十分に引き出し、組織として高いパフォーマンスを発揮できる職場環境を実現します。

地域の課題解決に向け、高い先見性でグローバルな視点を備え、世界の中の岩手を意識しながら、県民視点で県全体の利益を追求する職員を確保・育成します。

政策の着実な推進を支え、県民ニーズに応える満足度の高いサービスを提供していくため、機動的な組織体制の整備や持続可能な財政構造の構築など、限られた経営資源を最大限有効に活用するマネジメントの最適化に取り組みます。

県北広域振興圏

目指す姿

多様な自然資源、技術、若手の知恵・文化を生かし、北東北・北海道に広がる交流・連携を深めながら、新たな地域振興を展開する地域

《振興施策の基本方向》

- I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域
 - II 自然豊かで再生可能エネルギーを生かした災害に強い地域
 - III 地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域
- 1 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 2 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 3 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 4 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 5 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 6 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 7 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 8 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 9 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 10 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 11 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 12 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 13 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。
 - 14 自然豊かな環境を保全し、健康で心豊かに暮らせる地域をつくり出す。

2 「4本の柱」と取組方向等

I 地域意識に根ざした県民本位の行政経営の推進

《取組方向》

多様な県民ニーズに応え、将来にわたって一人ひとりの幸福を守り育てていくため、県民、企業、NPO、関係団体、市町村など、あらゆる主体がそれぞれ主体性を持って協働する、地域意識に根ざした県民本位の行政経営を進めます。県内外の自治体との広域連携や、グローバルな視点に基づき海外とのつながりを深め、若手の誇る価値や資源が最大限発揮された、より質の高い県民サービスを提供していきます。

《推進項目》

- 1 多様な主体とのつながりを形成し、県民本位の行政経営を推進します。
- 2 県内外の自治体との連携を強化し、広域連携を進めます。
- 3 海外とのつながりを形成し、グローバルな視点に基づき海外とのつながりを深めます。

II 高度な行政経営を支える職員の能力向上

《取組方向》

地域社会の一員としての自覚を持って、主体的に地域課題の解決に関わり、県民が主役となった地域づくりを支えていくため、若手県職員としてのあるべき姿を示す「若手県職員憲章」に基づき行動の徹底を図り、県政全般を俯瞰し、県民視点で県全体の利益を追求する職員を確保・育成します。

《推進項目》

- 1 県内外の県行政を担う職員を育成し、県民本位の行政経営を推進します。
- 2 若手・女性職員の活躍を支援します。
- 3 職員の能力開発を促進します。

III 効率的な業務遂行やワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の実現

《取組方向》

出産・育児・介護など生活の状況や、職員の年齢構成の偏在をはじめとする組織体制を取り巻く環境変化に適切に対応し、組織として高いパフォーマンスを発揮し続けていくため、業務の効率的な運営や柔軟な働き方の推進により、仕事と生活の調和を図り、職員が明るく、いきいきと働くことができる職場環境を実現します。

（推進項目）
1 効率的な業務遂行や働き方改革の推進
2 明るくいきいきとした職場環境づくりを推進します

IV 戦略的で実効性のあるマネジメント改革の推進

《取組方向》

事業を有効的かつ効率的に実施するため、PDCAサイクルの徹底を図るとともに、機動的で戦略的な組織マネジメントを推進するなど、限られた経営資源を最大限有効活用し、県民サービスの質の向上を図ります。

また、内部統制によるリスクマネジメントの強化などにより、行政の適正性と透明性を確保し、県民の信頼に応える行政経営を推進します。

さらに、この計画に掲げる政策を着実に推進するため、中長期的な視点を持って不断の改革に取り組み、将来にわたって安定した財政構造の構築に取り組みます。

（推進項目）
1 県民サービスの質の向上につながる提供システムを推進します
2 多様なニーズに対応する公民連携や官民連携の機会を積極的に推進します
3 県民本位の行政運営を実現する組織体制を構築し、サービスの向上を推進します
4 効果的で効率的な業務遂行体制を築くためのシステムを構築します
5 改革の推進を図るための適切な体制を構築します

計画期間

2019年度～2023年度までの5年間

【第1章】岩手の教育をめぐる状況

- 1 岩手の教育の歩み
 - ・ 平成18年の教育基本法の改正以降、社会全体での教育改革が進行
 - ・ 教育振興運動や「いわて教育の日」などの取組の推進
 - ・ 学習定書状況調査による「わかる授業」の実践
 - ・ 県立美術館、県立図書館の整備等
 - ・ 「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」の開催
 - ・ 平泉の文化遺産や橋野鉄鉱山の世界遺産登録
- 2 社会状況の変化
 - ・ 人口減少・少子化・高齢化の進行
 - ・ 急速な技術革新やグローバル化の進展
 - ・ 子どもを取り巻く社会経済的な課題の表面化
 - ・ 地域間格差の拡大
 - ・ 東日本大震災津波からの復旧・復興

- 3 岩手県の教育の現状と課題
 - **学校教育**
 - ・ 子どもたちをめぐる課題
 - ・ 授業力の向上や家庭学習の定着
 - ・ 高度情報社会に主体的に対応する力の育成
 - ・ 運動習慣の定着
 - ・ 特別支援教育における発達段階に応じた支援や指導
 - ・ いじめへの適切な対応
 - ・ 問題行動等の未然防止、早期発見・適切な対応
 - ・ 教職員のスキル継承と負担の増加
 - ・ 働き方改革による「チームとしての学校」の推進
 - 高校卒業後の進学や就職を取り巻く環境
 - ・ 大学入試制度改革への対応
 - ・ 地元定着の促進に向けたキャリア教育の充実
 - 学校の統廃合や施設の老朽化
 - ・ 教育の質の保証と学ぶ機会の保障
- **社会教育・家庭教育**
 - ・ 家庭の状況変化
 - ・ 社会全体での教育力の向上
 - 地域コミュニティの変化
 - ・ 教育振興運動や生涯学習による地域コミュニティの維持向上
 - 人生100年時代の到来
 - ・ 生涯にわたって学び続けられる環境づくり
 - 文化芸術・スポーツへの関心の高まり
 - ・ 文化芸術やスポーツの推進と地域への愛着の醸成

基本目標

学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり

【第2章】目標・取組の視点

目指す姿

子どもたちが、地域とともにある学校において生き生きと学び、夢を持ち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付けています。

学校教育

社会教育・家庭教育

県民が主体的・相互的に連携することにより、家庭の教育力の向上が図られるとともに、地域課題の解決に向けた取組や、文化芸術・スポーツ活動などへの参加を通じて、生涯を通じて楽しく学び、生き生きと生活しています。

取組の視点

視点1 岩手だからこそできる教育の推進

視点2 郷土に誇りと愛着を持つ心を育み、岩手で、世界で活躍する人材を育成

視点3 学びの場の復興の更なる推進

（第3章）具体的な施策の内容

学校教育

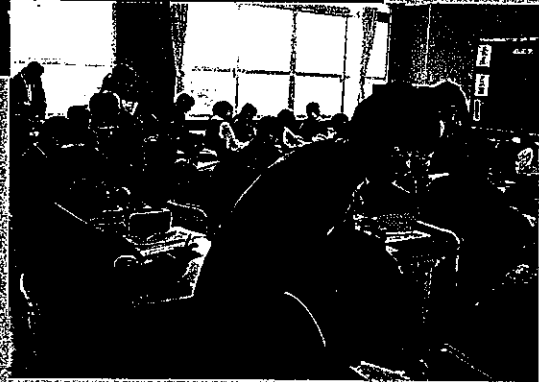
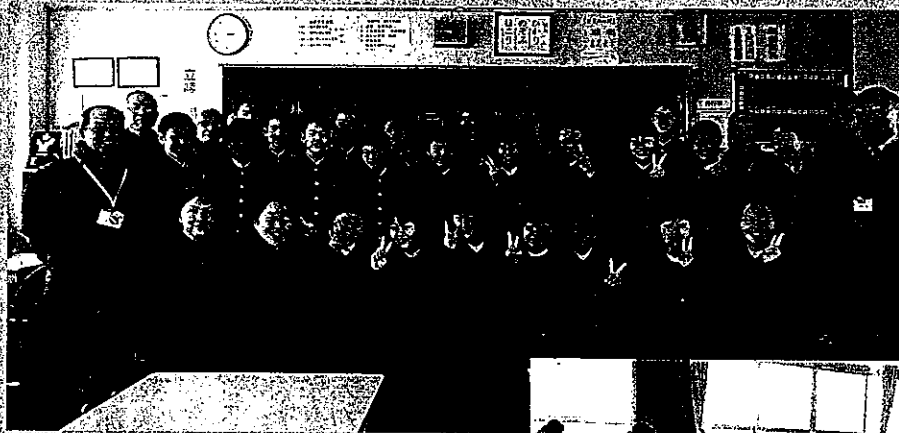
社会教育・家庭教育

- 1 岩手で、世界で活躍する人材の育成
 - ・ 復興教育の推進、地域に貢献する教育の推進、キャリア教育の推進とライフプラン能力育成、世界と岩手をつなぐ人材育成、イノベーションを創出する人材育成 等
- 2 確かな学力の育成
 - ・ これからの社会で活躍する真実能力の育成、児童生徒の実態に応じた授業改善の推進と家庭学習の充実、生徒の進路実現の推進 等
- 3 豊かな心の育成
 - ・ 自他の生命を大切に、他者の人権を尊重する心の育成、体験活動等を通じた豊かな心の育成、学校における文化芸術教育の推進、社会に参画する力の育成 等
- 4 健やかな体の育成
 - ・ 豊かなスポーツライフに向けた学校教育の充実、適切な部活動体制の推進、健康教育の充実 等
- 5 特別支援教育の推進
 - ・ 就学前から卒業後までの一貫した支援の充実、特別支援教育の多様なニーズへの対応、県民と協働した特別支援教育体制づくりの推進、教職員の専門性の向上 等
- 6 いじめ問題・不登校対策等への確かな対応
 - ・ いじめ防止対策の推進、いじめ事案への適切な対応、不登校対策の推進、健全育成に向けた対策、組織的な相談体制の充実 等
- 7 学びの基盤づくり
 - ・ 安心して学べる環境づくり、目標達成型学校経営、新たな県立高等学校再編計画の推進、多様なニーズへの対応、教職員の確保・育成、教職員の働き方改革 等
- 8 特色ある教育活動の支援、社会に貢献する人材の育成、教育環境の整備促進 等

- 9 学校と家庭・地域との協働の推進
 - ・ 学校・家庭・地域が連携するしくみづくり、多様な体験活動の充実、地域学校協働活動の推進 等
- 10 子育て支援や家庭教育支援の充実
 - ・ 子育てや家庭教育に関する学習活動支援、電話やメール等による相談体制の充実、子育て支援グループのネットワーキングづくり 等
- 11 生涯にわたり学び続ける環境づくり
 - ・ 多様な学習機会の充実、学びと活動の場による地域の活性化、社会教育の中核を担う人材の養成・確保と研修の充実 等
- 12 次世代につなげる郷土芸能や文化財の継承
 - ・ 学校における特別活動や文化部活動による郷土芸能の継承、文化財の適切な保存と継承 等



「みまもり、よりそい、はげまし」で 子どもとシニアがいきいきと



NPO法人学校支援のへおかはげまし隊
理事

桑畑 拓
(宮崎県延岡市)

1 はじまり

始まりは平成20年度の学校支援地域本部事業の受諾から始まりました。教育活動に地域の力を取り込み、教育活動を充実させる目的でした。初期に取り組んだのは環境改善、家庭科などの実習支援、校外活動の見守り等でした。

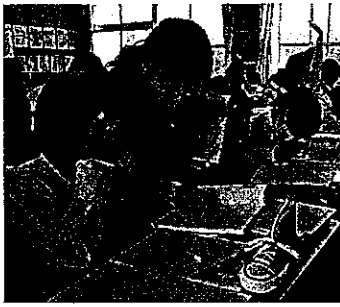
旭化成支社との連携で継続的な支援が何か出来ないかと協議し、旭化成延岡OB会との連携で数学の授業支援を行うことで合意しました。「はげまし隊」が、22名の旭化成延岡OB会員でスタートしました。数学の授業に教員免許のないシニアボランティアが毎時間複数名参加し数学の勉強を支援する画期的な取組が平成21年10月に始まりました。

2 どのように

教師でもないのに？企業OBが授業支援？どうして出来る？なぜ始めた？とその支援を取り巻く疑問の声に今回お答えしたいと思います。

(1) なぜ始めた

学校の最も大きい使命は、学力向上であることは周知の事実です。学力の意味づけは学ぶ力、学んだ力など様々です。学力を上げなさいという声はどの方向からも聞こえてきます。学ぶ力も学んだ力も本人の意欲の高まり、学びへの意識の高さが大きく作用します。自分の能力に気づいていない、つまずきに気づいていない生徒に、きめ細やかな支援を行うことで、学びへの意識を啓発できると思っただけです。どの子どももつと伸びるのです。



学校地域連携

(2) 教えて良いのか？

教えることはしません。教えるのではなく先生の授業内容が理解できてきているか、間違いは無いのを見、ヒントを与え考えさせます。あくまでも教える主体は教師です。教師が話しているときは、後ろの方で聞いています。話し始めた後方へ下がっています。

(3) 企業OBが協力するのか

定年退職した企業OBは、なにをして日々の生活を送っているのでしょうか。再就職している人は毎日が忙しいでしょう。しかし、再就職していない人は、団地の中では農業は出来ない。毎日ゴルフも出来ない。魚釣りもしたかったけど毎日ね・・・そうです。時間をもてあましています。もつと大きいのは、才能をもてあましています。何か社会貢献してみたいと思っている人は大勢いるのです。何か役に立ちたいと思っている意識の高い人は必ずいます。本年度200名のボランティアがいることでそのことは裏付けられています。

(4) どうして出来るの

シニアの多くは「まだまだやれる」「役に

立ちたい」「忘れられてたまるか」と思っているのです。その気持ちに火を付け、活躍の場を提供すれば集ってくださるのです。学校という場がなんだかス

マートな場所、孫のような可愛い子供たちがいる魅力的な場所なのです。潜在的にボランティアしたい人がいるのですから学校支援は出来るはずです。

(5) はげまし隊の原則1

「みまもり、よりそい、はげまし」が原則1です。教えるはありません。

みまもり一人ひとりの子供の様子を見守り戸惑いを感じていないか、間違いを感じていないかを把握します。よりそい一人ひとりの状況に寄り添い、その子供の迷い、間違いなどをベルに合わせた支援を行います。

はげましくじけそうになったときはげますのは当然です。ほめることも次への大きな励ましになります。

(6) はげまし隊原則2

「教えない、守秘義務を守る、教師批判しない」が原則2です。教えない、教員免許を持っていないのですから資格がありません。教える



のではなく先生の教えを守り、間違いに気づかせるのです。

守秘義務を守る、余りにも当然のことです。教師批判をしない、体罰、暴言、指導の間違ひなど気づいても直接教師批判はしません。

校長にそのおかしさを伝え、校長の判断で指導します。

このような基本姿勢の下、はげまし隊活動を継続してきました。何回も研修会を開き、適切な運営が出来るよう努力してきました。

(7) コーディネーターの配置

各学校には臨時的な雇用であるコーディネーターの配置を行っています。隊員さんの日々のお世話、学校との調整、行政・法人との連絡調整など、スムーズに運営が出来るように活動しており、雇用は社会教育課が行っています。

3 ひろがり(法人化)

平成21年10月にははげまし隊を始めてから2年が経過する時点で他の学校から導入について強い要請があり、1校増やすことにしました。その後、導入を希望する学校が年々増え、29年度には延岡市立中学校16校中12校になりました。残り4校は小規模校であり、極少人数での指導が出来るので導入は行わない方針です。

(1) 求める学校

子供たちの落ち着き、学力の向上など成果がみえてくるに依り、はげまし隊導入の求め

は大きくなってきました。予算や隊員の確保が課題であり、求めに速やかには応じられませんでした。

(2) 隊員の確保

はげまし隊派遣校が少ないうちは旭化成延岡OB会に隊員確保をお願いしていました。

4校、80名規模までは対応できましたが、8校120名となるとOB会だけでは確保が難しい状況になってきました。他の団体や一般の方の協力も得ようと考へ、退職者組織を持つている公務員、その他地元企業にも協力を仰ぎました。現在では、多様な組織の出身者が参加しており、専業主婦の姿もあります。

(3) 法人の設立

4校実施から8校実施へと拡充するとき、社会教育課での対応には限界があり、旭化成延岡OB会にだけでは対応できないとの考えから「特定非営利活動法人 学校支援のべおかはげまし隊」による運営を行うことにしました。法人は市からの委託金、企業からの協賛金、そ



隊員確保のための見学会



中学生のデザインによる
ロゴマーク

他の寄付金で運営することとしました。

法人は隊員の確保と隊員に対する研修、交通費の支給、広報活動などを行っています。

(4) 行政の対応

延岡市ははげまし隊の活動に対しての理解があり、事業拡大に伴う経費の肥大化には前向きに対応してもらっています。国・県の助成金がなくなっても、市単独でも事業継続をすると聞いています。コーディネートターの雇用は今でも社会教育課が行っています。

(5) 新しい動き

はげまし隊開始時は数学科、理科を行っていました。通年の指導ではない家庭科など、他の教科は行わなかった。はげまし隊の効果がはつきりして来るに従い、次のような動きが出てきました。

① 習熟度別少人数学級編成

支援の密度を上げたいとの思いから、より支援の効果が大きいと思われる習熟度の指導を各学校が模索し、はげまし隊の支援充実に向けた学級編成を行っています。

② 複数学年支援

習熟度別の編成や学年全体による編成などの工夫により、励まし隊員の負担が重くならない配慮の下、複数学年での支援を始めた学校もあります。

③ 他教科支援

英語科の支援を行う学校が1校あり、本年度は1校が開設を模索し、職員研修を行っています。平成30年度には開設の方向です。

4 効果

(1) 生徒

見守り効果により落ち着いた授業姿勢であり、他の学校生活でも落ち着いています。励ましが、ほめることも含んでいるとの認識で隊員が寄り添っている、否定的な言葉掛けはなく、子供たちは自己肯定感を持っていて思われます。みんな明るい学校生活を送っています。

肯定的であり、戸惑い、間違いに自ら気づくことによって学力も向上しています。

(2) 隊員

平均年齢が70才を超えているにもかかわらず元気に支援しています。はげまし隊員辞退の理由は本人の病気、家族の介護、再就職など回避できない理由であり、年齢、意欲喪失などで辞める人はほとんど見かけません。前述しましたが、役立ちの場があること、日々の生活に変化があることなどにより充実した日々が送れているとの実感がボランティアを続ける原動力となっていると実感されます。

数学支援と聞くと尻込みされる方もありますが、始めてみると脳の若返り効果があるなどの会話が聞かれるほど生き生きと支援していただいています。

(3) 企業

企業に対しては隊



旭化成延岡支社長 OB会長 はげまし隊員

員の紹介、協賛金の出資などをお願いしていただきますが、企業のCSR (Corporate Social Responsibility) としての意味も見いだしていただき、地域への貢献活動との意味づけで協力いただいています。法人運営経費の6割程度を協賛金で賄っています。

(4) 地域

多くの隊員がその中学校区内に住んでいます。そのおかげで、地域内の子供たちと顔見知りになり、挨拶を交わすなど明るい話題も聞けます。参加に当たっては、授業支援というある種特殊な活動であるので、地域の方々が気軽に参加できるものでもないようです。

5 課題

(1) 隊員の高齢化と隊員確保

はげまし隊活動も9年目ともなると初期からの隊員さんは9年の年月を重ねておられます。高齢者になつた65才の方がもうすぐ後期高齢者になるのです。現在80才を越された方が4名居られます。平均年齢が初期から今4才ほど高くなっています。高齢化による支援の困難性は徐々に高くなっていると感じます。



しているのですから、隊員確保の可能性は十分にあると言えます。広報、勧誘の充実が必要だと思えます。

(2) 学校による意識の違い
支援学年は1年で一斉授業を基本としてきましたが、現在では学校の考え方によって様々な形態で行われています。問題は形ではなく、はげまし隊を有効に活用しようという意識が高いかどうかです。担当教師、校長の考えで年毎に変化し、隊員が戸惑う様子も散見されます。活躍の場を大いに設定し、子供たちの成長に役立てる意識と行動が求められています。

(3) 資金確保
はげまし隊派遣学校の増加に伴い、年々、隊員の増加がありますが、法人の資金は隊員の増加に対応できるほど確保できていない状況にあります。活動のマンネリ化によって協賛金の新規開拓がなかなか進まない状況であり、成果をアピールし、資金確保に努める必要があります。

各種の財団による地域活動への支援事業など、資金確保のための広い視野を持った活動が必要です。

6 まとめ これから

(1) 相互利益 win win

生徒、隊員、教師その誰もが恩恵を受けています。生徒は落ち着いた学校生活と学力向上を手にかけています。隊員は活躍の場、役立ちの場があり、生活が充実しています。教師は授業の進めやすさと成果をあげています。

このように3者とも手にするものがあり、もっと手を取り合える活動にしたいと思えます。

(2) 開かれた学校づくり

地域の方々が日々学校に出入りすることは、地域に開かれた学校の実践そのものです。そこからまた新しい地域との結びつきが生まれるきっかけともなっています。地域との関係をより充実したものにしたいと願っています。

(3) シニアの活躍の場

生き生きと生活する高齢者、健康長寿の元である元気な生活、生き甲斐となる活動と活躍の場所がある喜びがここにあります。もっともっとシニアの参加を広げます。

(4) 継続と充実

数学科においての活動の継続は当然のこととしてとらえており、英語科授業におけるはげまし隊の輪が広がっています。

県内他地区でも2市1町で4校の活動が始まっています。市外では導入を模索している学校が複数あり、広がりがみえています。充実を図りながら実践を積み重ね広げます。



連絡先

NPO法人 学校支援のべおかはげまし隊
延岡市東本小路131番地5
TEL 0982(29)3786

平成31年度社会教育関係団体活動費補助金交付団体

資料 11

社会教育関係団体名	設立年月日	補助金 開始年度	代表者名	団体・会員数	主な補助事業内容
岩手県社会教育関係団体連絡協議会	H9.4.1	H9	末永正志	10 団体 165,759 人	*下記10団体を総括する。
1 岩手県青年団体協議会	S26.3.29	S37	松田恵美子	10市町村 11 団体 413 人	・岩手県青年大会(体育部門、文化部門) ・青年問題研究集会 ・活動家研修会
2 日本ボーイスカウト岩手連盟	S24.7.9	S36	末永正志	8市町村 11 団体 393 人	・カブ・ビーバーラー ・クッキングキャンプ ・技能オリンピック等
3 ガールスカウト岩手県連盟	S45.3.1	S46	菊地真弓	11市町村 11 団体 230 人	・広報活動 ・少女の心身発達に寄与する事業 ・指導者の養成
4 特定非営利活動法人 岩手県地域婦人団体協議会	S28.1.10	S38	瀬川愛子	24市町村 34 団体 6,960 人	・リーダー研修会 ・地域婦人大会 ・健康づくり活動
5 岩手県公立幼稚園・ こども園PTA連絡協議会	S50.7.10	S63	樋口理	12市町村 43 団体 1,560 人	・県幼P連総会・研究大会 ・ブロック研修会 ・会報発行
6 (一社)岩手県PTA連合会	S26.8.1	S45	田口昭隆	33市町村 33 団体 82,949 人	・三行詩・広報コンクール ・家庭教育セミナー ・広報活動等
7 岩手県高等学校PTA連合会	S26.8.3	S45	渡辺正和	30市町村 80 団体 27,481 人	・総会・研究協議会 ・会報発行 ・母親会員交流会等
8 岩手県社会教育連絡協議会	S42.4.1	S42	大橋清司	33市町村 34 団体 1,776 人	・公民館大会 ・機関紙の発行 ・社会教育主事・公民館職員等研修会
9 岩手県ユネスコ協会連盟	S28.3.15	S44	三田地宣子	14市町村 51 団体 1,394 人	・ユネスコ活動顕彰事業 ・ESDセミナー ・ユネスコ運動岩手県大会
10 岩手県子ども会育成連合会	S50.5.20	S50	三浦保治	13市町村 13 団体 42,603 人	・子ども会活動活性化事業 ・ブロック別研修会 ・子育て連だより発行

※平成30年6月現在

